05～08 年度 04 年度以前	ドイツの法律Ⅰ ドイツの法律 a	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツの法律Ⅰでは、ドイツ法の基礎知識として、ドイツ法資料へのアクセスのしかたを学びながら、基本法の構成・特徴を学びます。その後、ドイツと日本で共通的問題点を抱えている各法領域を、それぞれの解決方向の共通性と相違点を比較しながら、分析してみたいと考えています。基本的には公法領域が中心となりますが、教育法や社会保障法・福祉法など社会法療育も視野に入れていきたいと思います。	1　講義の進め方とスケジュール 2　ドイツ基本法を手に入れよう 3　ドイツ基本法の特徴 4　ドイツ基本法の構造（1） 5　ドイツ基本法の構造（2） 6　ドイツ行政法と日本行政法 7　ドイツの地方自治 8　ドイツの裁判制度 9　ドイツ教育制度と教育改革 10　ドイツ教育裁判 11　ドイツの児童福祉法 12　ドイツの介護保険制度 13　ドイツの成年後見制度 14　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
指定しませんが、ドイツ語辞書は必要です。	試験またはレポート

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの法律Ⅱ ドイツの法律 b	担当者	宗田　貴行

講義目的、講義概要	授業計画
経済の持続的発展のために、企業の経済活動をどのように律すべきか。この問題は、消費者と企業との取引に関連して、我々消費者の身近なところに存在します。 例えば、将来皆さんが、民間企業のある商品メーカーに勤めた場合にも、消費者として日用品を買ったり、趣向品を買ったりしますよね。このように、企業活動と消費者行動とは、同じコインの裏表の関係にあり、切っても切り離せないものなのです。ですから、企業活動をどのように律すべきかと言う問題は、消費者の利益をどのように確保すべきかと言う問題でもあるのです。 今日では、企業の社会的責任（CSR）として、環境、消費者の安全、法令順守に配慮した企業活動が、各企業に求められているところです。 そこで、本講義では、将来多くの皆さんが就職する民間企業が、こういった観点のもとで、どのような企業活動を行なうことが、消費者の利益を損なわず、法律に違反しないことであるのかについて、知識を提供し理解を深めます。 そのために、本講義では、経済の持続的発展を目標としている欧州連合（EU）の中心的存在であるドイツの消費者法を検討することにします。 また、ドイツの消費者法を学びつつ、我が国の消費者法はどうなっているのかについても、関心を高めてもらいたいと思っています。	1　消費者法とは 2　割引法・景品規則 3　誤認惹起広告、比較広告に対する規制 4　訪問販売、DM に対する規制 5　電話勧誘、FAX 広告に対する規制 6　電子メール広告に対する規制 7　製造者責任、製造物責任法等 8　約款規制 1 9　約款規制 2、訪問販売と撤回権 10　通信販売・電子商取引と情報提供義務 11　エンフォースメント① 12　エンフォースメント② 13　近時の展開 14　まとめ (順序等、変更の可能性あり)
テキスト、参考文献	**評価方法**
宗田貴行　迷惑メール規制法概説　レクシスネクシスジャパン 2006 年	成績はレポートで決めます。しかし、出席していないと、ちゃんと書けないレポートですので、出席をちゃんとするように。

08 年度以前	ドイツ語講読（歴史）	担当者	古田　善文

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツを代表する週刊誌『シュピーゲル』やオーストリアの雑誌『プロフィール』に掲載された現代史に関連する論説を抜粋して読んでいきます。具体的な教材は、初回に受講生の意見をまじえて複数の候補から選択・決定します（現時点では、「戦争・迫害の記憶」、「ナチズム関連」、「ドイツ国民とホロコースト」などを一応主要テーマとして考えています）。テキストが決定された時点で、必要に応じて、対象テーマについての予備講義を実施します。	第１回：　テキスト選定・担当者分担、評価方法・参考文献等の紹介 第２回：　テーマに関連した予備講義 第３回：　テキスト講読と解説 第４回：　テキスト講読と解説 第５回：　テキスト講読と解説 第６回：　テキスト講読と解説 第７回：　テキスト講読と解説 第８回：　関連ビデオ教材の紹介 第９回：　テキスト講読と解説 第 10 回：テキスト講読と解説 第 11 回：テキスト講読と解説 第 12 回：テキスト講読と解説 第 13 回：テキスト講読と解説 第 14 回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントをコピーして配付します。	学期末に実施する筆記試験、授業への貢献度および出席状況に基づいて決定します。

08 年度以前	ドイツ語講読（歴史）	担当者	古田　善文

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期はオーストリアの文化、社会、政治についてコンパクトにまとめられた次の概説書を適宜解説を加えながら読んでいくことにします。 Karl Vocelka, *Geschichte Österreichs. Kultur—Gesellschaft—Politik*, Graz,Wien,Köln,2000 もちろん、オーストリア史はドイツ史に比べて認知度が低いと思われますので、学期のはじめにオーストリア史についての予備講義を実施する予定です。	第１回：　テキスト選定・担当者分担、評価方法・参考文献等の紹介 第２回：　オーストリア史についての予備講義 第３回：　テキスト講読と解説 第４回：　テキスト講読と解説 第５回：　テキスト講読と解説 第６回：　テキスト講読と解説 第７回：　テキスト講読と解説 第８回：　関連ビデオ教材の紹介 第９回：　テキスト講読と解説 第 10 回：テキスト講読と解説 第 11 回：テキスト講読と解説 第 12 回：テキスト講読と解説 第 13 回：テキスト講読と解説 第 14 回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントをコピーして配付します。	学期末に実施する筆記試験、授業への貢献度および出席状況に基づいて決定します。

08 年度以前	ドイツ語講読(歴史)	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
19 世紀のドイツは海外移民の国であったが、中世以来、ドイツはまた多数の移民をロシアを含む東欧に送り出してきた。この人々は移住先において、強くドイツ「民族性」を保持するコミュニティを形成してきた。 ナチ体制下のドイツがこの地域を占領すると、この人々は集団的、強制的にドイツ国籍を与えられ、「民族ドイツ人」として、占領地域を「ドイツ化」するために利用された。ドイツの敗戦後、この人々の多くは難民や被追放者となって、場合によっては数世紀ぶりに、「本国」に「帰還」した。 彼らの一部はその後も東西冷戦下に「帰国」を続けたが、彼らの大量移住(=「帰国」)が始まったのは、1989 年以降のソ連・東欧の社会主義体制の解体とドイツの再統合以降である。 昨年度は敗戦直後の難民や被追放者の状況をあつかうことしかできなかったが、本年度はそれ以降の過程に歩を進めたい。	第 1 回　講義 第 2～13 回　テキストを読む 第 14 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
こちらで教材を用意する	学期末の筆記試験に平常点を加味して評価する

08 年度以前	ドイツ語講読(歴史)	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
昨年 3 月行なわれた第 3 回イスラム協議会は公立学校の宗教の授業にイスラムの授業を取り入れることを決定した。現実には教員の確保やイスラム側のパートナーの確定など困難な障害が前途に立ちはだかっているため、実施にはまだかなりの時間を要すると思われるが、連邦共和国は移民(とりわけトルコ系移民)の統合に向けて、また新たな舵取りを行なった。 移民の統合はヨーロッパ統合と密接な関係がある。現在、欧州連合(EU)はリスボン条約によってさらに統合の度合いを深めようとしているが、同時に不法移民の規制の強化にも乗り出している。地域統合は国境を廃し、域内住民に共通の権利を与えることをめざすが、今度は地域の境界線が新たな壁となって立ちはだかる。つまり、ここでは統合と排除がワンセットとなって働いているのである。 こういう状況のなかで、一人ドイツだけが、トルコ系移民を従来のような曖昧な立場のまま放置しておくことはできない。そこで移民に対する統合の度合いを深める政策に乗り出したのである。 今年度も EU 統合が進むなかで、ドイツ国家の統合政策をテキストを通じて追っていきたい。	第 1 回　講義 第 2～13 回　テキストを読む 第 14 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
こちらで教材を用意する	学期末の筆記試験に平常点を加味して評価する

08 年度以前	ドイツ語講読（歴史）	担当者	増谷　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツないしオーストリアの歴史に関連するテキストを読んでいく。テキストのドイツ語を理解するだけではなく、その内容をきちんと把握していく読み方を訓練していく。結果としてそれぞれがテキストの正確な日本語訳を完成させることを目標とする。	１～１４：講読ないしテスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で紹介	数回のテストをおこなう。 訳の提出。

08 年度以前	ドイツ語講読(歴史)	担当者	増谷　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツないしオーストリアの歴史に関連するテキストを読んでいく。テキストのドイツ語を理解するだけではなく、その内容をきちんと把握していく読み方を訓練していく。結果としてそれぞれがテキストの正確な日本語訳を完成させることを目標とする。	１～１４：講読ないしテスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で紹介	数回のテストをおこなう。 訳の提出。

08 年度以前	ドイツ語講読（社会）	担当者	大重　光太郎

講義目的、講義概要	授業計画
1990 年代初頭から、現代世界を特徴づけるものとして「グローバル化」という言葉が用いられるようになった。この言葉は、多くの著者がそれぞれの意味合いを込めて用いており、この言葉を一義的に定義することは難しい。同時に難しいのは、「グローバル化」といわれる現象をどのように評価するかである。 本授業では、ヘルムート・シュミット（1918～）Helmut Schmidt のグローバル化論を読み、この問題を考えていきたい。シュミットは、1974 年から 1982 年にかけてドイツ連邦首相を務め、引退後もドイツの政治・社会問題に関する鋭い分析と深い洞察で定評がある。現代ドイツを代表する知性とみなされている。テキストは 1997 年に行われたデュッセルドルフ大学での講演をもとにしているが、その射程の広さと洞察の深さは 10 年を経た現在でも色褪せておらず、逆にその先見性を証明するものである。 文献の輪読をもとに、グローバル化の背景は何か、どういう形で表れているのか、その功罪は何か、どのように対応してべきなのかを考えていきたい。	1.　授業のガイダンス 2.　～13. テキスト輪読 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Helmut Schmidt, Globalisierung. Politische, ökonomische und kulturelle Herausforderungen. Goldmann Verlag. 2006 (1998)	授業での出席と発表、期末試験により総合的に評価する。

08 年度以前	ドイツ語講読（社会）	担当者	大重　光太郎

講義目的、講義概要	授業計画
1990 年代初頭から、現代世界を特徴づけるものとして「グローバル化」という言葉が用いられるようになった。この言葉は、多くの著者がそれぞれの意味合いを込めて用いており、この言葉を一義的に定義することは難しい。同時に難しいのは、「グローバル化」といわれる現象をどのように評価するかである。 本授業では、ヘルムート・シュミット（1918～）Helmut Schmidt のグローバル化論を読み、この問題を考えていきたい。シュミットは、1974 年から 1982 年にかけてドイツ連邦首相を務め、引退後もドイツの政治・社会問題に関する鋭い分析と深い洞察で定評がある。現代ドイツを代表する知性とみなされている。テキストは 1997 年に行われたデュッセルドルフ大学での講演をもとにしているが、その射程の広さと洞察の深さは 10 年を経た現在でも色褪せておらず、逆にその先見性を証明するものである。 文献の輪読をもとに、グローバル化の背景は何か、どういう形で表れているのか、その功罪は何か、どのように対応してべきなのかを考えていきたい。	1.　授業のガイダンス 2.　～13. テキスト輪読 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Helmut Schmidt, Globalisierung. Politische, ökonomische und kulturelle Herausforderungen. Goldmann Verlag. 2006 (1998)	授業での出席と発表、期末試験により総合的に評価する。

08 年度以前	ドイツ語講読（社会）	担当者	林部　圭一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ドイツ語圏社会をより良く理解できるようになることを目標とする。 　そのために、現代のドイツ語圏社会がかかえる問題やドイツ語圏で起きた事件についての解説記事や対談記事を読むための読解力を向上させる。 **講義概要**： 　最近の新聞、雑誌、インターネットの解説記事、対談記事を適時取り出して、読んで行く。 　社会に関する用語に注意して読む。	1：　授業計画の説明、教材のコピー配布 2：　最近話題になっている記事を教材に読み始める。 3：　前回の終わったところから読み進む。 4：　前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 5：　前回に配布した新しい記事を読み始める。 6：　前回の終わったところから読み進む。 7：　前回の終わったところから読み進む。 8：　前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 9：　前回に配布した新しい記事を読み始める。 10：前回の終わったところから読み進む。 11：前回の終わったところから読み進む。 12：前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 13：前回の終わったところから読み進む。 14：配布した記事を読み終わり、まとめをする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：未定。できるだけ新しい記事をコピーして、配布する。	期末の筆記試験、授業での参加意欲を参考に評価する。

08 年度以前	ドイツ語講読（社会）	担当者	林部　圭一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ドイツ語圏社会をより良く理解できるようになることを目標とする。 　そのために、現代のドイツ語圏社会がかかえる問題やドイツ語圏で起きた事件についての解説記事や対談記事を読むための読解力を向上させる。 **講義概要**： 　最近の新聞、雑誌、インターネットの解説記事、対談記事を適時取り出して、読んで行く。 　社会に関する用語に注意して読む。	1：　授業計画の説明、教材のコピー配布 2：　最近話題になっている記事を教材に読み始める。 3：　前回の終わったところから読み進む。 4：　前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 5：　前回に配布した新しい記事を読み始める。 6：　前回の終わったところから読み進む。 7：　前回の終わったところから読み進む。 8：　前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 9：　前回に配布した新しい記事を読み始める。 10：前回の終わったところから読み進む。 11：前回の終わったところから読み進む。 12：前回の終わったところから読み進む。読み終われば、別の新鮮な記事のコピーを配布する。 13：前回の終わったところから読み進む。 14：配布した記事を読み終わり、まとめをする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：未定。できるだけ新しい記事をコピーして、配布する。	期末の筆記試験、授業での参加意欲を参考に評価する。

08 年度以前	ドイツ語講読（社会）	担当者	永岡　敦

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は比較的平易なテキストを媒介にして、 1. 文法知識の徹底と強化 2. 将来に通じる読解力、訳出力の養成 を図ります。 すなわち，学年が上がるうちに「自分はいつの間にか，同級生よりも後れをとってしまった。」とか，「改めて，きちんと頭で納得できる形で文法知識を習得したい。」等の思いを抱いている人に好適かと思います。 その一方，ドイツ語検定２級合格も視野に入れて，種々の注意を喚起します（したがって，すでに２級を取得している人は初回の講義の様子を見て履修するかどうか決めて下さい)。	この講義は 3・4 年生の混在クラスであることから，例年そもそも所属学年に起因する知識量に差異が見られます。加えて個々人のそれまでの学習態度に起因して，その差異はさらに振幅の度を増してスタートラインに着くことになります。そのような現況の元では，事前に機械的な計画を提示することは却って画餅に帰するでしょう。 大事なことは「形式を整える」ことにあるのではなく，「中身を充実させる」ことにあるはずです。まずは第１回講義時の「クラスの雰囲気・気配を嗅ぎとって」，講義時間内に方針を立案し，皆さんに口頭で提示します。つまり，「相手を見て最良の戦略を決める。」ということです（↓の秋学期の「授業計画」に続く)。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントにて配布。 「独和辞典」および文法の資料（手持ちの教科書・参考書等）必携。	出席重視。また，学期末にペーパーテストを実施。なお正当な理由を報告しないまま，連続して３回以上（つまり一ヶ月）欠席した場合は名簿から削除することがあるので注意。特に就職活動従事者は，「黙って休んでいて，連休明け頃にいきなり来る」ことをしないこと（試験は出席していないと点が取れない問題になっています)。

08 年度以前	ドイツ語講読（社会）	担当者	永岡　敦

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では引き続き文法上の演習を繰り返しつつも、重点は冒頭に提示した「講義目的」の 2. に移行させます。 というのも、テキストの概要を把握すること自体は可能でも、これをあたかも「もともと日本語で書かれていた。」かのように他人に理解してもらうのは、なかなか容易なことではありません。個々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが必要です。本講義ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の堆積」からの脱却し，自然な日本語への翻訳力の涵養（かんよう）を図ります。	以下，↑の方針を敷衍すべく，中身に具体性を持たせましょう。 春学期においては冒頭の「講義目的」の 1. に重きを置きます。したがって文法中心の内容となるため，いわゆる速読・多読の形式は採りません。すなわち典型的と目される文例を選択し、これを対象に冠飾句の付け替え、語順の入れ替え、そして時制、態，法の変換等を反復的に演習します。これらは、たいてい直接の指名によって口頭（ないしは板書）での解答を求めることとなります。 秋学期では左の欄(←)の「講義目的」にあるように「講義目的」の ２．に重きを置くつもりですが，新規履修者と継続履修者の比率や春学期履修者のペーパーテストの成績を踏まえ，適切な進・深度を設定します。（早い話が，やはり顔ぶれとそのレベルに応じて柔軟に対応するということです。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

08 年度以前	ドイツ語講読(社会)	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
ヘルムート・シュミット(旧西ドイツの連邦首相)の論文『公共のモラルを求めて』(Auf der Suche nach einer öffentlichen Moral: Deutschland vor dem neuen Jahrhundert 1998)の原典講読を通じて、現代社会における公共のモラルのあり方を考察して行きたい。 比較的平易なドイツ語で書かれているので、文法の基礎的な知識と辞書を丹念に引くという人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。	1. ガイダンス 2. 以下は原典講読に付き、略す。
テキスト、参考文献	**評価方法**
上記の書を購入するのが望ましいが、一応原典講読に必要な部分のみプリント配布する。	出席状況と平素の学習態度を加味したうえで、筆記試験の成績で評価する。100 点満点中 10 点を出席点とする。

08 年度以前	ドイツ語講読（社会）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続いて、ヘルムート・シュミットの上記の論文『公共のモラルを求めて』の原典講読を通じて、現代社会における公共のモラルのあり方を考察して行きたい。 比較的平易なドイツ語で書かれているので、文法の基礎的な知識と辞書を丹念に引くという人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。	1. ガイダンス 2. 以下は原典講読に付き、略す。
テキスト、参考文献	**評価方法**
上記の書を購入するのが望ましいが、一応原典講読に必要な部分のみプリント配布する。	出席状況と平素の学習態度を加味したうえで、筆記試験の成績で評価する。100 点満点中 10 点を出席点とする。

08年度以前	卒業論文	担当者	黒田　多美子

講義目的、講義概要	授業計画
4年間の勉強の総仕上げとしての卒論を充実させ，形式的にも内容面でもしっかりした卒論が提出できるようにする。 １．まとまった量の論文を書くためには，それに応じたストラテジーが必要である。そのために必要な基本的な考え方や実践法を学ぶ。 ２．論文作成においては，個々人の研究・作業はもとより，主査および「卒論指導」担当教員や参加学生同士の対話も重要な要素である。分野を越えた対話を通して，お互いに刺激し合い，卒論のレベル向上を目指す。 ３．基礎演習・専門演習で培ってきた社会に出てからも必要になる企画力・研究調査力・プレゼンテーション能力などの，大学レベルでの仕上げを目指す。 ＊注意＊ 　この授業は，主に論文のリテラシーや研究調査の進め方に関しての授業を行う。論文の専門的な内容については，あくまでも指導教員との綿密な話し合いや教員からの指導が不可欠である。	詳しくは第１回授業時に説明する。 第１回　導入 第２回　卒論の基本的なリテラシー 第３回　論文題目提出のための準備１ 第４回　論文題目提出のための準備２ 第５回　文献目録の作成 第６回　文献目録の作成 第７回　卒論作成のためのストラテジー１ 第８回　卒論作成のためのストラテジー２ 第９回　卒論作成のためのストラテジー３ 第10回 卒論作成のためのストラテジー４ 第11～14回　中間報告会
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて指示する。	卒業論文の評価と連動して評価される。なお，卒業論文の評価においては，この授業への参加および主査との話し合いの程度，中間報告，提出後の口頭試問の結果がともに考慮される。

08年度以前	卒業論文	担当者	黒田　多美子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期を参照。 秋学期では，論文のしあげ・提出に向けての授業，口頭試問が中心となる。	第１回　夏休みの成果報告 第２回　論文のストラテジー１ 第３回　論文のストラテジー２ 第４回　論文のストラテジー３ 第５回　論文のストラテジー４ 第６回　論文の日本語１ 第７回　論文の日本語２ 第８回　要約のためのドイツ語１ 第９回　要約のためのドイツ語２ 第10回　要約のためのドイツ語３ 第11回　要約のためのドイツ語４ 第12～14回　口頭試問
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて指示する。	春学期を参照。

03 年度以降（春）	総合講座（音楽とことば・文学①）	担当者	コーディネーター 木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
この総合講座では、音楽とことば・文学に関する幅広い内容を扱います。 この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が、映像資料や録音資料、生演奏等を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、音楽が中心になったり、文学や地域論に重点が置かれたり、歌詞の観点から音楽を論じたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。 注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。	1．木村佐千子（本学ドイツ語学科准教授）〈オリエンテーション〉〈バッハの《マタイ受難曲》における音楽とことば〉 2．前沢浩子（本学英語学科准教授）〈シェイクスピアと音楽〉 3．佐藤亜紀子（リュート奏者、東京芸術大学教育研究助手）〈リュート音楽（レクチャーコンサート）〉 4．佐野康子（本学英語学科専任講師）〈多様なるアフリカの人と文化〉 5．渡部重美（本学ドイツ語学科教授）〈詩を読むための作法～韻律論入門～〉 6．下川浩（本学ドイツ語学科教授）〈ドイツ歌曲〉 7．高橋雄一郎（本学交流文化学科教授）〈ヴェトナム戦争と映像・舞台・音楽（1）〉 8．高橋雄一郎〈ヴェトナム戦争と映像・舞台・音楽（2）〉 9．松橋麻利（本学フランス語学科非常勤講師）〈象徴主義の詩と歌曲〉 10. 若森栄樹（本学フランス語学科教授）〈フランスのシャンソンにおける言葉と音楽〉 11. 原成吉（本学英語学科教授）〈Poetry in Music －Ballad tradition & Bob Dylan〉 12. 原成吉〈Music in Poetry －Poetry Performance of Gary Snyder〉 13. 前原恵美（有明教育芸術短期大学専任講師）〈歌舞伎における音楽描写について〉 14. 木村佐千子〈標題音楽について〉〈まとめ〉 ※内容や担当者は変更となる場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に適宜紹介します。	出席を重視し（10 回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。

03 年度以降（秋）	総合講座（音楽とことば・文学②）	担当者	コーディネーター 木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
この総合講座では、音楽とことば・文学に関する幅広い内容を扱います。 この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が、映像資料や録音資料等を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、音楽が中心になったり、文学や地域論に重点が置かれたり、歌詞の観点から音楽を論じたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。 注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。	1．木村佐千子（本学ドイツ語学科准教授）〈オリエンテーション〉〈バッハのカンタータにおける音楽とことば〉 2．児嶋一男（本学英語学科教授）〈O'Conner の "Famine" から映画 *Once* まで ——U2 やエンヤの国の様変り〉 3．上野直子（本学英語学科教授）〈レゲエの根っこと根無しのカリブ〉 4．上野直子〈ラサの Bob・東京の "Redemption Song"〉 5．森立子（日本大学非常勤講師）〈フランスのバロック･オペラ〉 6．松橋麻利（本学フランス語学科非常勤講師）〈オペラにおける人間表現〉 7．谷口亜沙子（本学フランス語学科専任講師）〈「カルメン」をめぐって〉 8．諏訪功（元本学ドイツ語学科特任教授、一橋大学名誉教授）〈「音楽とことば」。音楽とことばに共通する線的性質〉 9．近藤静乃（東京芸術大学非常勤講師）〈現代における「声明（しょうみょう）」の魅力——日本伝統音楽の源流として〉 10. 工藤達也（本学ドイツ語学科准教授）〈生命と神話——クラーゲスの『リズムの本質』を中心に〉 11. 木村佐千子〈ルター派のコラール　～クリスマスの音楽を中心に～〉 12. 山本淳（本学ドイツ語学科教授）〈「詩」としてのドイツ・ポップス〉 13.. 園田みどり（本学全学共通カリキュラム非常勤講師）〈イタリア語の韻律と音楽のかかわりについて〉 14. 木村佐千子〈交響詩について〉〈まとめ〉 ※内容や担当者は変更となる場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に適宜紹介します。	出席を重視し（10 回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。

03 年度以降（春）	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。 地域統合の歴史的前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。	講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 5~7. 第 2 次大戦・戦後復興と欧州統合 8~9. EU の制度的起源(1)：ECSC の成立 10~11. EU の制度的起源(2)：EEC の成立 12~13. EEC の定着期 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年	平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）

03 年度以降（秋）	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。	講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 通貨統合 5~6. マーストリヒト条約以降の EU 7~8. EU の制度 9~10. EU の諸政策 11. 加盟国と EU 12~13. EU 域外との関係 14. まとめ：EU の現在の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年	平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）

03年度以降（春）	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1　講義の概要と目標、情報科学とは 2　データ表現、基数変換、論理演算 3　コンピュータの構成要素 4　ソフトウェアの役割、体系と種類 5　オペレーティングシステム（OS） 　OS の基礎概念、OS の役割と原理 6　プログラム言語 　コンピュータ言語の分類と目的 7　データ構造―リスト、スタック、キュー、2 分木 8　アルゴリズムーアルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9　コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10 コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11　機械翻訳システムの演習 12　自然言語質問応答システム 13　インターネット上の多言語処理技術 14　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

03 年度以降（春）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[総合]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）〔英語〕〔ヨーロッパ言語〕」との重複履修はできない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『文科系学生のための情報活用』（共立出版） 各担当教員の指定する参考文献を使用する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[総合]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件・概要：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『文科系学生のための情報活用』（共立出版） 各担当教員の指定する参考文献を使用する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[英語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）[総合] [ヨーロッパ言語]」との重複履修はできない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[英語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）〔総合〕〔英語〕」との重複履修はできない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［入門］情報科学各論（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」との重複履修はできない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『文科系学生のための情報活用』（共立出版） 各担当教員の指定する参考文献を使用する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『文科系学生のための情報活用』（共立出版） 各担当教員の指定する参考文献を使用する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」との重複履修はできない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	［応用］情報科学各論（Office 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［応用］情報科学各論（Office 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（春）	情報科学各論（言語情報処理１）	担当者	木村　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] この授業では，言語が機械（コンピューター）可読の資料になったとき，それらをどのような方法で分析し，その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り，考えることを目的とする． [概要] コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい，近年では数多くの辞書や文法書，外国語学習書にその分析結果が生かされている．コンピューターを利用することにより，人間の目あるいは直感では知りえないことがわかってくるということがある．たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ 10 は何か」とか，「日本の高校で使われている単語は，英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである． 本授業では，さまざまなジャンル，モード，発話者から集められたコーパスを，専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる． ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい	1. ガイダンス 2. コーパスとは何か 3. コンピューターの基本操作: テキストエディタ 4. コンピューターの基本操作: MS Excel 5. 高度な Web 検索方法 6. British National Corpus（BNC）の紹介 7. BNC を利用した語句検索 8. BNC を利用した共起検索 9. BNC を利用した話し言葉と書き言葉の比較 10. コーパスの作成: 映画コーパスを作る 11. 映画コーパスの分析: 口語表現の特徴 12. 映画コーパスの分析: ジャンルによる違い 13. 映画コーパスの分析: 品詞分析 14. 最終レポートの準備
テキスト、参考文献	**評価方法**
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する．	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する．特に出席については，累積で失格，欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること．

03 年度以降（秋）	情報科学各論（言語情報処理２）	担当者	木村　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 春学期に引き続き，コーパス分析を行うが，今学期は英語学習者による話し言葉・書き言葉を集めた，「学習者コーパス」を分析の対象とする．私たち自身を含む英語学習者の発話を分析することにより，どのような語彙・文法使用および誤り（エラー）がわれわれ日本人英語学習者の特徴なのかを知り，今後の学習や教育に生かすことを目的とする． [概要] 前半は日本人 1200 人分の英語によるインタビューデータを収集し，コーパス化した NICT JLE Corpus を扱う．後半は日本人中高生の 1 万におよぶ英作文を集めた JEFLL Corpus を扱う．いずれも異なる英語力を持つ学習者グループのデータを含んでいるため，「英語力が低い人と高い人は具体的に何が違うのか？」という疑問に対する答えを求めるため，語彙，文法，談話，誤り等の観点から分析を行う． ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい ※ 「言語情報処理 Ｉa」を受講していることが望ましい	1. ガイダンス 2. 学習者コーパスとは 3. NICT JLE Corpus の概要 4. NICT JLE Corpus の分析（1） 5. NICT JLE Corpus の分析（2） 6. NICT JLE Corpus の分析（3） 7. NICT JLE Corpus の分析（4） 8. JEFLL Corpus の概要 9. JEFLL Corpus の分析（1） 10. JEFLL Corpus の分析（2） 11. JEFLL Corpus の分析（3） 12. JEFLL Corpus の分析（4） 13. 最終レポートの準備（1） 14. 最終レポートの準備（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する．	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する．特に出席については，累積で失格，欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること．

03 年度以降(春)	情報科学各論（言語情報処理１）	担当者	吉成　雄一郎

講義目的，講義概要	授業計画
（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です） 本講義では，最終的にはコンピュータというメガネを通して，「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば，皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時，どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが，必ずしも近くにいるとは限りませんし，聞く相手によって答えが揺れることもあります。 そんな時に，一つのヒントを与えてくれるものが，「コーパス」です。コーパスというのは，コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで，普通の辞書では得られない例文を見つけたり，また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。 本講義では，まず春学期に情報処理の基本的な考え方，発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析 **（下に続く↓）**	1　講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2　言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3　計算(計算式，計算式のコピー，セルの相対参照，絶対参照等) 4　Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5　Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6　Excel 関数(論理関数を中心に) 7　Excel 関数のネスト（１） 8　Excel 関数のネスト（２） 9　データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 10　データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 11　データベース上のデータの蓄積方法 12　自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 13　まとめと演習
テキスト，参考文献	**評価方法**
テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。	学期末試験および２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

03 年度以降(秋)	情報科学各論（言語情報処理２）	担当者	吉成　雄一郎

講義目的，講義概要	授業計画
には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが，それらのツールは特定の処理には適しているものの，汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく，あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。 秋学期は，春学期に学んだ Excel の知識を活用して，学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から，コーパスの構築の仕方，および Excel で KWIC Concordance を実現する手法，および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに，本格的なコーパス，約１億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は，コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。 本講義で修得したコンピュータを使った見方と，構築した自分専用のコーパスは，講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。	1　講義のガイダンス：コーパスとその応用 2　Access 上にデータを格納 3　Access のデータを引き出して Excel で分析 4　コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5　コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6　コンコーダンスラインの利用(3)：演習 7　品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて，より精密な分析を試みる。また，自動タグ付けも試みる。 8　タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9　最先端のコーパスの現状：体験アクセス 10　「文体」をどうとらえるか。－文の長さ－ 11　文の長さが意味するもの－標準偏差・変動係数 12　語彙密度・K 特性値 13　まとめと演習
テキスト，参考文献	**評価方法**
テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。	学期末レポートおよび２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

03 年度以降（春）	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために）（HTML 応用 1）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（HTML 中級）」との重複履修はできない。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 応用 1）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（HTML 中級）」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降（秋）	［HTML］情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：　評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために）（HTML 応用 1）」のいずれかを履修した人は履修できない。	1　ガイダンスとイントロダクション 2　HTML と FTP の復習（1） 3　HTML と FTP の復習（2） 4　インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5　プログラミングの基礎知識 6　JavaScript（1） 7　JavaScript（2） 8　JavaScript（3） 9　JavaScript（4） 10　JavaScript（5） 11　CGI の利用 12　総合課題（1） 13　総合課題（2） 14　鑑賞・報告会
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。	授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。 最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。

03 年度以降（春）	経済原論 a (経済学 a)	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　経済学の目的と方法 ２．　家計の行動① ３．　家計の行動② ４．　家計の行動③ ５．　企業の行動① ６．　企業の行動② ７．　企業の行動③ ８．　市場の理論① ９．　市場の理論② １０．　厚生経済学の基本定理 １１．　不完全競争市場① １２．　不完全競争市場② １３．　市場の失敗 １４．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として定期試験の成績で評価する。

03 年度以降（秋）	経済原論 b (経済学 b)	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　マクロ経済学の体系 ２．　国民所得の諸概念 ３．　消費と貯蓄の理論 ４．　投資の理論 ５．　国民所得決定の理論 ６．　生産物市場の分析 ７．　金融市場の分析 ８．　IS-LM 分析① ９．　IS-LM 分析② １０．　インフレとデフレ １１．　政府債務と財政赤字 １２．　経済成長論 １３．　開放マクロ経済 １４．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として定期試験の成績で評価する。

05 年度以降 04 年度以前	総合ドイツ語 I 総合ドイツ語 I a（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、1 年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenz-rahmen für Sprachen」の A1 レヴェルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。	１．　Lektion 1 ２．　〃 ３．　Lektion 2 ４．　〃 ５．　Lektion 3 ６．　〃 ７．　Lektion 4 ８．　〃 ９．　Lektion 5 １０．　〃 １１．　Lektion 6 １２．　〃 １３．　Lektion 7 １４．　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
Schritte international 1 を初回の授業までに購入して持参してください。 （既習クラスは別教材です。）	出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 I の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 II へ進めません。

05 年度以降 04 年度以前	総合ドイツ語 II 総合ドイツ語 I b（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、1 年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenz-rahmen für Sprachen」の A1 レヴェルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch)に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。	１．　Lektion 8 ２．　〃 ３．　Lektion 9 ４．　〃 ５．　Lektion 10 ６．　〃 ７．　Lektion 11 ８．　〃 ９．　Lektion 12 １０．　〃 １１．　Lektion 13 １２．　〃 １３．　Lektion 14 １４．　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
Schritte international 2 を初回の授業までに購入して持参してください。 （既習クラスは別教材です。）	出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。総合ドイツ語 II の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 III へ進めません。

05 年度以降 04 年度以前	基礎ドイツ語 I ドイツ語 I a（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語運用能力の土台となる文法を中心に，ドイツ語の基礎を学んでいきます。はじめて学習する言語なので，2学期間で発音から初級文法を習得します。 ドイツ語を身につけるためには，授業時間中だけでなく，予習・復習をしっかりすることが大切です。継続的に積み重ねて学ぶことを意識してください。なお辞書については，授業中に指示します。 ★一学期の間に授業回数の3分の1を越えて欠席すると，評価の対象となりません (F評価) ので，注意してください。 ★既習クラス (1組) は，ネーティブ教員による別メニューの授業が行われます。第1回授業時に教科書などの指示を受けてください。統一試験は実施しません。	春学期中に 10 課まで進む予定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
矢羽々(他)『日本人学生のための文法練習(仮題)』München (Hueber) 2009 年を使用。詳しくは 4 月の学科ガイダンスおよび第 1 回授業時に。	学期末試験（統一試験），および出席によって評価します。

05 年度以降 04 年度以前	基礎ドイツ語 II ドイツ語 I b（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語運用能力の土台となる文法を中心に，ドイツ語の基礎を学んでいきます。はじめて学習する言語なので，2学期間で発音から初級文法を習得します。 ドイツ語を身につけるためには，授業時間中だけでなく，予習・復習をしっかりすることが大切です。継続的に積み重ねて学ぶことを意識してください。なお辞書については，授業中に指示します。 ★一学期の間に授業回数の3分の1を越えて欠席すると，評価の対象となりません (F評価) ので，注意してください。 ★既習クラス (1組) は，ネーティブ教員による別メニューの授業が行われます。第1回授業時に教科書などの指示を受けてください。統一試験は実施しません。	秋学期には 20 課まで進む予定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
矢羽々(他)『日本人学生のための文法練習(仮題)』München (Hueber) 2009 年を使用。詳しくは 4 月の学科ガイダンスおよび第 1 回授業時に。	学期はじめの復習試験，学期末試験（それぞれ統一試験），および出席によって評価します。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツ語 LL I ドイツ語 I a（LL）	担当者	宍戸　節太郎

講義目的、講義概要	授業計画
ヴィデオ教材を用い、ドイツ語による実践的なコミュニケーション能力や聴き取り能力の養成を図ります。 授業は CAL 教室で行います。 教材は、各ユニットごとに、さまざまな日常的シチュエーションを扱っていますが、それぞれの場面で、重要表現を用いたパターン練習、会話練習を行ったり、聴き取りの訓練を行ったりします。 それにより、ドイツ語圏で生活したり、ドイツ語圏を旅行したりするときに役立つ基本的で実践的なドイツ語運用能力を身につけましょう。	1 オリエンテーション 2 Unit 1 3 同上 4 Unit 2 5 同上 6 Unit 3 7 同上 8 Unit 4 9 同上 10 同上 11 Unit 5 12 同上 13 同上 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、プリントの形で配布します。	学期末試験、出席状況、授業への参加度を基準に、総合的に判断し、評価を出します。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツ語 LL II ドイツ語 I b（LL）	担当者	宍戸　節太郎

講義目的、講義概要	授業計画
ヴィデオ教材を用い、ドイツ語による実践的なコミュニケーション能力や聴き取り能力の養成を図ります。 授業は CAL 教室で行います。 教材は、各ユニットごとに、さまざまな日常的シチュエーションを扱っていますが、それぞれの場面で、重要表現を用いたパターン練習、会話練習を行ったり、聴き取りの訓練を行ったりします。 それにより、ドイツ語圏で生活したり、ドイツ語圏を旅行したりするときに役立つ基本的で実践的なドイツ語運用能力を身につけましょう。 ＊秋学期は、授業の一部を使って、補助教材による発音および聴き取りに特化した練習を行います。	1 オリエンテーション 2 Unit 6 3 同上 4 Unit 7 5 同上 6 Unit 8 7 同上 8 Unit 9 9 同上 10 同上 11 Unit 10 12 同上 13 同上 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、プリントの形で配布します。 ＜補助教材＞ Deutsche Phonetik für japanische Studenten （購入については、授業中に指示します。）	学期末試験、出席状況、授業への参加度を基準に、総合的に判断し、評価を出します。

05 年度以降 04 年度以前	総合ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅱa（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）（2 名のネイティヴ教員が担当するクラスもあり）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 2 年目の今年は、「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レヴェルの水準達成を目指します。また、3 年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch)に合格する水準達成を目標とします。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。	１．　Lektion 1 ２．　〃 ３．　Lektion 2 ４．　〃 ５．　Lektion 3 ６．　〃 ７．　Lektion 4 ８．　〃 ９．　Lektion 5 １０．　〃 １１．　Lektion 6 １２．　〃 １３．　Lektion 7 １４．　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
Schritte international 3 の教科書を初回の授業までに購入して持参してください。 （既習クラスは別教材です。）	出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。総合ドイツ語 III の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 IV へ進めません。

05 年度以降 04 年度以前	総合ドイツ語Ⅳ ドイツ語Ⅱb（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）（2 名のネイティヴ教員が担当するクラスもあり）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 2 年目の今年は、「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レヴェルの水準達成を目指します。また、3 年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目標とします。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。	１．　Lektion 8 ２．　〃 ３．　Lektion 9 ４．　〃 ５．　Lektion 10 ６．　〃 ７．　Lektion 11 ８．　〃 ９．　Lektion 12 １０．　〃 １１．　Lektion 13 １２．　〃 １３．　Lektion 14 １４．　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
Schritte international 4 の教科書を初回の授業までに購入して持参してください。 （既習クラス・再履修クラスは別教材です。）	出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口頭試験の結果を総合して評価します。総合ドイツ語 IV の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 V へ進めません。

05～08 年度 04 年度以前	基礎ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅱa（応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、すでに基礎ドイツ語 I・II を修得済みの学生を対象に、ドイツ語の基礎能力のさらなる発展を目指すものです。 今学期は特にドイツ語の読解力を養成するための教科書を用意し、第 3 学年次以降の講読の授業への導入を行います。 読解力の養成のためには自分でちゃんと辞書を引ける能力が問われます。そのためにも、授業に参加する際は、必ず予習を行うこと。また、2 課ごとに小テストを行うので、復習することも必要となります。 語学の習得には予習・復習をコツコツとこなす以外の道はありません。また、出席についても期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）にも関係しますので、できる限り毎回授業に出席することを要請します。 詳しいことについてはさらに、最初の授業時間に説明しますので必ず出席してください。	第 1 週　オリエンテーション、接続法（『練習中心初級ドイツ語文法』第 18 課） 第 2 週　接続法 第 3 週～第 13 週まで、採用教科書 Kapotel1～6 第 14 週　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
和泉・三ツ石　他著：『ドイツ文化にまつわる 6 章』（三修社）	授業時間中に行う小テスト、および学期末試験（出席による受験制限有り）

05～08 年度 04 年度以前	基礎ドイツ語Ⅳ ドイツ語Ⅱb（応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は基礎ドイツ語 III 修得済みの学生を対象に、基礎ドイツ語能力のさらなる発展を目指すものです。 今学期はドイツ語の作文能力を養成するための教科書を採用し、ドイツ語で情報発信するための準備講座という様相を帯びています。 ドイツ語の作文ではこれまで習ってきた文法事項など総合的な語学能力が問われます。これまで習ってきたことの総復習という意味がありますので、この授業でも予習・復習は欠かさないでください。また 2 課終わるごとに小テストを行うので、必ず受験するようにしてください。 また、出席についても期末試験の受験資格（学期中の規程欠席回数を超えると受験できない）にも関係しますので、できる限り毎回授業に出席することを要請します。 詳しいことについてはさらに、最初の授業時間に説明しますので必ず出席してください。	第 1 週　オリエンテーション、前学期の教科書の Anhang 第 2 週　前学期の教科書の続き 第 3 週～第 13 週　採用教科書全 10 課 第 14 週　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野　著：『ドイツ語を書いてみよう』(白水社)	授業時間中に行う小テスト、および学期末試験（出席による受験制限有り）

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語圏入門 I ドイツ語圏入門 a	担当者	飯嶋　曜子 （コーディネータ）

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 　ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。 1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく第 1 学期から履修できる「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像（いわば見取り図）を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。 3) 論文の読み方・レポートの書き方：文献検索の方法や、論文の一般的な形式や構造を学び、論文・レポート作成のための基礎的な技術を習得する。 講義概要 　各担当者が、ドイツ語圏の歴史、食文化、マスメディア、美術 etc.といったテーマで基本的な講義をします。論文の読み方やレポートの書き方についてお話しする回も設ける予定です。	第 1 回の授業時に、本学期の講義計画表を配布します。また、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。（必修授業ですので、第 1 週から出席をとります。） ＊連絡事項を教務課のドイツ語学科掲示板にてお知らせすることがありますので、掲示板を定期的に確認してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。また、第 1 回のガイダンス時に基本図書文献目録を配布します。	出席状況および学期末試験の結果に基づいて評価します。詳細は第 1 回の授業（ガイダンス）の際に説明します。

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語圏入門 II ドイツ語圏入門 b	担当者	飯嶋　曜子 （コーディネータ）

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 　ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。 1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく第 1 学期から履修できる「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像（いわば見取り図）を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。 3) 論文の読み方・レポートの書き方：文献検索の方法や、論文の一般的な形式や構造を学び、論文・レポート作成のための基礎的な技術を習得する。 講義概要 　春学期と同様に、各担当者が、文化、文学、民俗行事 etc.といったテーマで基本的な講義を行います。加えて、秋学期は、「移民」という共通テーマで複数の教員が連続してそれぞれの専門分野の視点から講義を行います（約 5 回）。また、卒業生から留学や就職の話をきく回も設ける予定です。	第 1 回の授業時に、本学期の講義計画表を配布します。なお、秋学期のみ受講する学生には、第 1 回の授業で履修上の注意事項等を記したプリントを配布しますので、必ず出席し、コーディネータに申し出てください。（必修授業ですので、第 1 週から出席をとります。） 　また、学期途中にレポートを課します。締切日までにレポートを提出しない場合、学期末試験を受験する資格を失うことになります。 ＊連絡事項を教務課のドイツ語学科掲示板にてお知らせすることがありますので、掲示板を定期的に確認してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。	出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。

05 年度以降 04 年度以前	基礎演習Ⅰ 基礎演習 a	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
1 年次の「ドイツ語圏入門」では、おもにドイツ語圏に関する基礎知識の習得とレポート執筆の技術を身につけることを目標にしました。2 年次の「基礎演習」では、「知のスキル」を高め、3 年次以降の専門研究に向けて準備することを目標にします。 「知のスキル」とは、一体、何を意味するでしょうか。いろいろなとらえ方があると思いますが、さしあたりこの授業では、以下のようなものとしてとらえていきます。 ① テキストを正確に理解する力 ② 論理的な思考する力 ③ 発表する力（プレゼンテーション） ④ 議論する力（ディスカッションやディベート） ⑤ 書く力（レポート執筆） ⑥ 調べる技術（文献・情報検索術） ⑦ 議論をまとめる力（議事録作成） 春学期は、共通テキストの輪読をもとにディスカッションやディベートを行います。またテキストのテーマに基づき、２回レポートを提出してもらいます。 なお３年次以降の「専門演習」の履修は、「基礎演習Ⅰ/Ⅱ」の両方を修得済みであることが条件です。	1. 授業のガイダンス 2. テーマⅠ：テキスト輪読とディスカッション 3. 同 4. 同 5. 同 6. 文献検索実習 7. ディスカッション/ディベート 8. テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション 9. 同 10. 同 11. 同 12. ディスカッション/ディベート 13. 中間レポートの返却と指導 14. まとめ、秋学期計画
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員による指示。	出席（出欠・遅刻）、授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。

05 年度以降 04 年度以前	基礎演習Ⅱ 基礎演習 b	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では、おもにグループでの共同研究やディスカッション、ディベートなどを通じて、「知のスキル」を高めることを目的とします。 教員と学生の相談のうえ、ドイツ語圏にまつわるテーマを設定し、グループごとに調査し発表します（１グループ４～５人）。秋学期中、一人２回ずつ研究発表を行います。また発表をまとめたレポートを２回提出してもらいます。 ３年次からの専門演習での研究テーマを考えながら、自分のテーマを絞っていきます。 なお３年次以降の「専門演習」の履修は、「基礎演習Ⅰ/Ⅱ」両方を修得済みであることが条件になります。	1. 授業のガイダンス、春学期末レポート返却・指導 2. グループ研究①に向けたグループ別作業 3. グループ研究① 4. 同 5. 同 6. 同 7. 同 8. グループ研究②に向けたグループ別作業 9. グループ研究② 10. 同 11. 同 12. 同 13. 同 中間レポートの返却と指導 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員による指示。	出席（出欠・遅刻）、授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。

05 年度以降 04 年度以前	総合ドイツ語Ⅴ 総合ドイツ語Ⅲa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員が授業を担当し、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、3 年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1 /ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もドイツ語で書かれており、授業はすべてドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。	１．　Lektion 1 ２．　〃 ３．　Lektion 2 ４．　〃 ５．　Lektion 3 ６．　〃 ７．　Lektion 4 ８．　〃 ９．　Lektion 5 １０．　〃 １１．　Lektion 6 １２．　〃 １３．　Lektion 7 １４．　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
Schritte international 5 （既習クラスは別教材です。）	出席状況、授業中に行う小テスト、および学期末口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 V の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 VI へ進めません。

05 年度以降 04 年度以前	総合ドイツ語Ⅵ 総合ドイツ語Ⅲb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員が授業を担当し、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、3 年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティヴの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。	１．　Lektion 8 ２．　〃 ３．　Lektion 9 ４．　〃 ５．　Lektion 10 ６．　〃 ７．　Lektion 11 ８．　〃 ９．　Lektion 12 １０．　〃 １１．　Lektion 13 １２．　〃 １３．　Lektion 14 １４．　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
Schritte international 6 （既習クラスは別教材です。）	出席状況、授業中に行う小テスト、および学期末口頭試験の結果を総合して評価します。

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（時事） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	R．メッツィング

講義目的、講義概要	授業計画
Frühlingsemester 2009 In diesem Unterricht soll das globale bzw. selektive Hörverständnis gestärkt werden. In jeder Unterrichtseinheit wird eine kleine fortlaufende Geschichte zu hören sein. Zu dieser Geschichte werden Fragen gestellt, die schriftlich bzw. mündlich beantwortet werden sollen und das globale Hörverständnis verbessern sollen. Vom Text ausgehend werden Sprechübungen gemacht, die einen grammatischen Hintergrund haben. Beim selektiven Hörverständnis soll aus einem kurzen gehörten Text etwas bestimmtes herausgehört werden. Außerdem wird es Diktate geben, die den Text im vorherigen Unterricht beinhaltete. Als Hausaufgabe wird es Übungen geben. Desweiteren wird es landeskundliche Informationen über Deutschland geben. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.	1．“Ich habe doch mein Referat”, Hörtext, Relativpronomen, Studentenleben 2．“Rothenburg? Um Gottes willen!”, Hörtext, unregelmäßige Vergleichsformen, Ostern 3．“Bitte greif mal ordentlich zu!”, Hörtext, Passiv, Regensburg 4. “Sehr geehrter Herr Professor Lachmann”, Hörtext, reflexive Verben, Das neue Reichstagsgebäude 5．“Heiter bis wolkig, strichweise Regen” Hörtext, Deklination der Adjektive, Das Wetter in Deutschland. 6．“Bitte sag Du zu mir!”, Hörtext, indirekte Rede, Duzen und siezen 7．“Nimm mich auch mit nach Weimar!”, Hörtext, Funktionsverbgefüge, Goethe und Weimar 8. “Ich glaube, mein rechtes Bein ist gebrochen.” Hörtext, Infinitivanschluss mit zu, Das Gesundheitswesen 9. “Kazuko kommt im Fernsehen.”, Hörtext, indirekte Rede, au “Ich hade doch mein Referat.”, Hörtext, Relativpronomen, Studentenleben ausländische Arbeitersländische Arbeiter
テキスト、参考文献	**評価方法**
Es werden Kopien gemacht.（Buch:“Machen wir weiter”, Sanshusha, Elisabeth Schmidt）	

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（時事） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	R．メッツィング

講義目的、講義概要	授業計画
Herbstsemester 2009/10 In diesem Unterricht wird das Hörverständnis verbessert. In jeder Unterrichtseinheit wird eine fortlaufende Detektivgeschichte in abgeschlossenen Einzelteilen gehört. Dazu werden Fragen gestellt und schriftlich bzw. mündlich beantwortet. Zum mündlichen Ausdruck gehören ebenfalls Bildbeschreibungen und Vermutungen, was aut dem Bild gerade passiert. Außerdem werden Übungen zu lösen sein. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben	1. bis 14. Unterrichtseinheit Hörtext, Fragen zum Text, Bildbeschreibung, Dialog lesen und nachsprechen, Übungen zum Sprechen, Hausaufgaben
テキスト、参考文献	**評価方法**
Es werden Kopien gemacht.（Buch:Langenscheidt, Die Aufgabe）	

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（時事） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	E.ビリック

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs werden wir uns mit Umwelt- und Naturschutz beschäftigen. Ein hochaktuelles Thema, das aber manchmal auch etwas Fachkenntnisse braucht. Das sprachliche Ziel ist es, durch die Arbeit mit Texten, Abbildungen, Karikaturen, Literatur, grammatische und praktische Aufgaben , den Wortschatz bzw. das deutschsprachige Fachwissen der Lernenden zu erweitern und durch Schreib- und Sprechübungen dessen Anwendung zu üben. Bei der inhaltlichen Arbeit mit den Texten stehen nicht nur die jeweiligen Themen selbst im Mittelpunkt, sondern auch der Bezug zum eigenen Land, also Japan.	Vorläufiges Programm: 1. Kennenlernen, Einleitung 2. Umwelt- und Naturschutz 3./4. Grüner Punkt, gelber Sack und Co. 5./6. Das Wasser bei Goethe und im 21. Jahrhundert 7./8. Die Erde – ein Treibhaus? 9. Höllenlärm oder himmlische Ruhe? 10. Klimapolitik, z.B. Das Kyoto-Protokoll 11./12. Umweltbewusstsein in Deutschland bzw. Japan 13. Zusammenfassung 14. Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
Unterlagen bzw. Kopien werden im Unterricht verteilt.	Regelmäßige Teilnahme am Kurs, gelegentliche kleine Tests, Semesterabschlusstest (schriftlich, ggf. mündlich).

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（時事） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	E.ビリック

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs werden wir uns mit Umwelt- und Naturschutz beschäftigen. Ein hochaktuelles Thema, das aber manchmal auch etwas Fachkenntnisse braucht. Das sprachliche Ziel ist es, durch die Arbeit mit Texten, Abbildungen, Karikaturen, Literatur, grammatische und praktische Aufgaben , den Wortschatz bzw. das deutschsprachige Fachwissen der Lernenden zu erweitern und durch Schreib- und Sprechübungen dessen Anwendung zu üben. Bei der inhaltlichen Arbeit mit den Texten stehen nicht nur die jeweiligen Themen selbst im Mittelpunkt, sondern auch der Bezug zum eigenen Land, also Japan.	Vorläufiges Programm: 1. Kennenlernen, Einleitung 2. Umwelt- und Naturschutz 3./4. Grüner Punkt, gelber Sack und Co. 5./6. Das Wasser bei Goethe und im 21. Jahrhundert 7./8. Die Erde – ein Treibhaus? 9. Höllenlärm oder himmlische Ruhe? 10. Klimapolitik, z.B. Das Kyoto-Protokoll 11./12. Umweltbewusstsein in Deutschland bzw. Japan 13. Zusammenfassung 14. Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
Unterlagen bzw. Kopien werden im Unterricht verteilt.	Regelmäßige Teilnahme am Kurs, gelegentliche kleine Tests, Semesterabschlusstest (schriftlich, ggf. mündlich).

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
Wir wollen in dieser Klasse eines der deutschen Märchen "Die Bremer Stadtmusikanten", "Der Räuberbräutigam", "Hans mein Igel" und "König Drosselbart" lesen und dazu Volks- und Kunstlieder singen. Ausserdem machen wir Hör- und Sprechübungen, und wiederholen die Grammatik, wie es sich im Text ergibt, und wie es die Studenten wünschen.	①Vorstellung und Einführung ②- Ende Lektüre der Märchen, dazu Gespräche und Diskussionen
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbuch "Hans mein Igel" von Stefan Wundt und Motohashi Ukyo, Ikubundo Verlag	Anwesenheit und Referate

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
Fortsetzung des Frühlingsemesters, Auswahl aus den oben genannten Märchen und aus Volksliedern	Fortsetzung des Frühlingsemesters
テキスト、参考文献	**評価方法**
"Hans mein Igel"	Anwesenheit und Referate

05～08 年度 04 年度以前	木１	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	D．オルランド

講義目的、講義概要	授業計画
THEMA: Wir werden uns mit dem Alltagsleben deutscher Schüler(innen) befassen (Schule und Freizeit). ZIEL: Sie können unterschiedliche Strategien anwenden, um einen Text hinreichend zu verstehen und zusammen zu fassen. Das Halten mehrerer Kurzreferate gibt Ihnen die Sicherheit beim Sprechen und verbessert Ihre Ausdrucksweise.	ABLAUF: In den ersten Stunden werden wir uns näher kennen lernen und den weiteren Verlauf des Kurses besprechen, der aus den folgenden Punkten bestehen wird: - Regelmäßiges Brainstorming zum Thema - Redemittel-Übungen und Grammatik-Spiele (vor allem zu den Präpositionen) - Vertiefungsteil (Alltagsleben …) Am Anfang jeder Stunde hält ein(e) Student(in) eine kurze Zusammenfassung der vorherigen Stunde (3 Min.), stellt das Thema der neuen Stunde kurz vor (2 Min.) und schreibt die für sie/ihn 7 wichtigsten neuen Wörter/Ausdrücke an die Tafel. Mit diesen Wörtern stellt sie/er dem Kurs themenbezogene Fragen.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Die Materialien/bearbeiteten Texte werden im Unterricht verteilt.	1. Anwesenheit und aktive Mitarbeit 2. Kurzreferate 3. mündliche Prüfung

05～08 年度 04 年度以前	木１	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	D．オルランド

講義目的、講義概要	授業計画
THEMA: In diesem Semester werden wir uns folgerichtig mit dem Alltagsleben Jugendlicher in Deutschland beschäftigen. ZIEL: Sie können die wichtigsten Redemittel beherrschen und im Gespräch anwenden. Pro- und Kontra Diskussionen und das Halten mehrerer Kurzreferate geben Ihnen die Sicherheit beim Sprechen und verbessern Ihre Ausdrucksweise. Ausserdem werden Sie in der Lage sein, Grafiken auszuwerten	ABLAUF: In den ersten Stunden werden wir uns näher kennen lernen und den weiteren Verlauf des Kurses besprechen, der auch hier aus den folgenden Punkten bestehen wird: - Regelmäßiges Brainstorming zum Thema - Redemittel-Übungen und Grammatik-Spiele (vor allem zu den Präpositionen) - Vertiefungsteil (Alltagsleben …) Am Anfang jeder Stunde hält ein(e) Student(in) eine kurze Zusammenfassung der vorherigen Stunde (3 Min.), Anders als im ersten Semester aber wird sie/er (themenbezogen) kurz über die japanische Situation referieren (5 Min). Anschließend wird über das Gehörte im Kurs diskutiert.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Die Materialien/bearbeiteten Texte werden im Unterricht verteilt.	1. Anwesenheit und aktive Mitarbeit 2. Kurzreferate 3. mündliche Prüfung

05～08 年度 04 年度以前	木 3	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	D．オルランド

講義目的、講義概要	授業計画
THEMA: Beschreibung (und Neuerfindung) von Deutschland, der Schweiz und Österreich anhand von Bildern, Bildergeschichten oder Überschriften ZIEL: Sie können Vermutungen anstellen, hinterfragen und haben die Fähigkeit, Ihre Meinung zu verteidigen. Außerdem sind Sie in der Lage, Ihre kreativen Ideen/Gedanken in Worte zu fassen und besitzen den nötigen Wortschatz, ein Bild genauestens zu beschreiben.	ABLAUF: In den ersten Stunden werden wir uns näher kennen lernen und den weiteren Verlauf des Kurses besprechen, BEISPIEL EINER KURSSTUNDE: Die Student(inn)en bekommen z.B ein Foto von einem Sushi-Restaurant in Düsseldorf. Nach der Beschreibung werden wir uns um dieses Restaurant herum eine Geschichte und eine Umgebung ausdenken. Sollten auch zwei Gäste zu sehen sein, so könnten wir einen Dialog zum Foto schreiben und ihn vorspielen. Jede Teilnehmerin und jeder Teilnehmer bekommt als Hausaufgabe eine Bildbeschreibung, die sie/er vor dem Kurs vortragen soll..
テキスト、参考文献	**評価方法**
Die Materialien werden im Unterricht verteilt.	1. Anwesenheit und aktive Mitarbeit 2. Beschreibung eines Bildes / Erfindung einer Geschichte 3. mündliche Prüfung

05～08 年度 04 年度以前	木 3	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	D．オルランド

講義目的、講義概要	授業計画
THEMA: Beschreibung (und Neuerfindung) von Deutschland, der Schweiz und Österreich anhand von Bildern, Bildergeschichten oder Überschriften – Film, Sport und Persönlichkeit ZIEL: Sie können Vermutungen anstellen, hinterfragen und haben die Fähigkeit, Ihre Meinung zu verteidigen. Außerdem sind Sie in der Lage, Ihre kreativen Ideen/Gedanken in Worte zu fassen und besitzen den nötigen Wortschatz, ein Bild genauestens zu beschreiben.	ABLAUF: In den ersten Stunden werden wir uns näher kennen lernen und den weiteren Verlauf des Kurses besprechen, BEISPIEL EINER KURSSTUNDE: Die Student(inn)en bekommen z.B. ein Foto von der Fanmeile in Berlin. Nach einer genauen Beschreibung denken sie sich eine Geschichte um dieses Bild herum aus. Warum sind so viele Menschen da? Warum steht auf dem Plakat “Weltmeister der Herzen”? usw.. Jede Teilnehmerin und jeder Teilnehmer bekommt als Hausaufgabe eine Bildbeschreibung, die sie/er vor dem Kurs vortragen soll..
テキスト、参考文献	**評価方法**
Die Materialien werden im Unterricht verteilt.	1. Anwesenheit und aktive Mitarbeit 2. Beschreibung eines Bildes / Erfindung einer Geschichte 3. mündliche Prüfung

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	M. G. シュミット

講義目的、講義概要	授業計画
Das Ziel dieses Kurses ist, die Fähikgeit der Kommunikation zu üben und zu verbessern. Die Teilnehmer sollen spontan Gespräche verstehen und führen können. Deshalb werden verschiedene Ebenen der Kommunikation geübt: Aussprache, Sprachrhythmus, Intonation Dialogstrukturen und mit Sprache handeln, z. B. die eigene Meinung äußern, jemanden überreden, zustimmen, ablehnen u. a. Grammatische Strukturen: Konjunktiv für Höflichkeit und für Wünsche Wortschatz, Redemittel, Redewendungen (Idiome) Interkulturelles: Höflichkeit, Tabus etc. Verschiedene Situationen für Gespräche	Plan 1. Stunde Orientierung und erste Übungen. 2. Der weitere Plan wird nach Niveau und Interesse aufgestellt Verschiedene ganzheitliche Methoden: hören, sehen, sprechen, machen, bewegen, spielen Unterrichtsform: ganze Klasse, Partnerarbeit, Kleingruppe, Wechselübungen, Gruppenarbeit Maerialien: Texte, Bilder, CD, DVD/Video, Computer etc. Wichtig ist eine aktive Mitarbeit während des Unterrichts.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Die Lehrmaterialien werden im Unterricht verteilt.	Anwesenheit, Lerntagebuch, Mitarbeit im Unterricht, Kurztests, mündliche Prüfung

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	M. G. シュミット

講義目的、講義概要	授業計画
Das Ziel dieses Kurses ist, die Fähikgeit der Kommunikation zu üben und zu verbessern. Die Teilnehmer sollen spontan Gespräche verstehen und führen können. Deshalb werden verschiedene Ebenen der Kommunikation geübt: Aussprache, Sprachrhythmus, Intonation Dialogstrukturen und mit Sprache handeln, z. B. die eigene Meinung äußern, jemanden überreden, zustimmen, ablehnen u. a. Grammatische Strukturen: Konjunktiv für Höflichkeit und für Wünsche Wortschatz, Redemittel, Redewendungen (Idiome) Interkulturelles: Höflichkeit, Tabus etc. Verschiedene Situationen für Gespräche	Plan 1. Stunde Orientierung und erste Übungen. 2. Der weitere Plan wird nach Niveau und Interesse aufgestellt Verschiedene ganzheitliche Methoden: hören, sehen, sprechen, machen, bewegen, spielen Unterrichtsform: ganze Klasse, Partnerarbeit, Kleingruppe, Wechselübungen, Gruppenarbeit Maerialien: Texte, Bilder, CD, DVD/Video, Computer etc. Wichtig ist eine aktive Mitarbeit während des Unterrichts.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Die Lehrmaterialien werden im Unterricht verteilt.	Anwesenheit, Lerntagebuch, Mitarbeit im Unterricht, Kurztests, mündliche Prüfung

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	Ｓ．ケルバー＝阿部

講義目的、講義概要	授業計画
これまで習得したドイツ語を、さらに「使えるドイツ語」にステップアップさせることを目標とした授業です。そのため授業では「聞く・話す」を中心に進めていきます。 教科書は特に定めず、その都度、ふさわしいと思われる教材を利用していきます。（例えば教師作成プリントや、ドイツの文化事情などに触れられる様々なメディア、教科書のコピーなど。） 一つの形に縛られず、教材・授業形式ともに、フレキシブルな授業にしていきたいと思うので、実際の授業がどうなるかは始まってからのお楽しみです。本当の「ドイツ通」を目指したい学生、集まれ！	第 1 回　授業説明、導入など 第 2 回　ZD の口頭試験対策 第 3 回　ZD の口頭試験対策 第 4 回　ZD の口頭試験対策 第 5 回　調整日 第 6 回　ビデオ製作 第 7 回　ビデオ製作 第 8 回　ビデオ製作 第 9 回　調整日 第 10 回　生活会話の実演練習 第 11 回　生活会話の実演練習 第 12 回　生活会話の実演練習 第 13 回　調整日 第 14 回　最終試験、解説、説明など
テキスト、参考文献	**評価方法**
私のホームページです。ドイツに関する情報などが得られます。http://sven.kir.jp/index.html	出席率・授業への参加度・最終試験を総合判断します。耳と口と体とハートを積極的に動かす学生を待っています。

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	Ｓ．ケルバー＝阿部

講義目的、講義概要	授業計画
これまで習得したドイツ語を、さらに「使えるドイツ語」にステップアップさせることを目標とした授業です。そのため授業では「聞く・話す」を中心に進めていきます。 教科書は特に定めず、その都度、ふさわしいと思われる教材を利用していきます。（例えば教師作成プリントや、ドイツの文化事情などに触れられる様々なメディア、教科書のコピーなど。） 一つの形に縛られず、教材・授業形式ともに、フレキシブルな授業にしていきたいと思うので、実際の授業がどうなるかは始まってからのお楽しみです。本当の「ドイツ通」を目指したい学生、集まれ！	第 1 回　授業説明、導入など 第 2 回　ZD の口頭試験対策 第 3 回　ZD の口頭試験対策 第 4 回　ZD の口頭試験対策 第 5 回　調整日 第 6 回　ビデオ製作 第 7 回　ビデオ製作 第 8 回　ビデオ製作 第 9 回　調整日 第 10 回　生活会話の実演練習 第 11 回　生活会話の実演練習 第 12 回　生活会話の実演練習 第 13 回　調整日 第 14 回　最終試験、解説、説明など
テキスト、参考文献	**評価方法**
私のホームページです。ドイツに関する情報などが得られます。http://sven.kir.jp/index.html	出席率・授業への参加度・最終試験を総合判断します。耳と口と体とハートを積極的に動かす学生を待っています。

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	Th. カーラー

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs werden wir anhand verschiedener Materialien versuchen, grammatisch korrekte und einfach verständliche Sätze zu schreiben.	Der Inhalt des Unterrichts hängt von der Größe der Klasse und der Umfrage in der ersten Stunde ab.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Fotokopien werden gestellt.	Anwesenheit, Test

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	Th. カーラー

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs werden wir anhand verschiedener Materialien versuchen, grammatisch korrekte und einfach verständliche Sätze zu schreiben.	Der Inhalt des Unterrichts hängt von der Größe der Klasse und der Umfrage in der ersten Stunde ab.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Fotokopien werden gestellt.	Anwesenheit, Test

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	H.J. トロル

講義目的、講義概要	授業計画
Wir werden uns verschiedenen Formen des Schreibens widmen, von einfachen persönlichen Mitteilungen über E-Mails bis hin zu offiziellen und geschäftlichen Briefen. Dabei werden wir auch den grammatischen Gebrauch der Sprache vertiefen. Hausaufgaben sind zu machen, um den Fortschritt zu sichern. Wir orientieren uns an einem Lehrbuch, aber auch Fragen oder Wünsche der Studenten sind willkommen. Schreiben soll Spaß machen...	Der Ablauf des Semesters wird zu Beginn besprochen. Dabei orientiere ich mich auch am Gesamtlevel der Teilnehmer. 1. Einführung 2. Kurzes schriftliches Vorstellen 3. Buch Lektion 1 und 2 4. Persönliches Schreiben 5. Buch Lektion 3-5 6. E-Mails 7. Buch Lektion 6-8 8. Kleiner Text und Lektion 9-10 9. Berichte im Präteritum 10. Lektion 11-14 11. Offizieller Brief 12. Lektion 15-17 13. Lektion 18-20 14. Gesamtzusammenfassung
テキスト、参考文献	**評価方法**
Y. Fukuda/H. Troll『表現と作文』(Verlag 白水社) ISBN978-4-560-00458-6	Hausaufgaben und End-Semestertests, regelmäßige Teilnahme

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	H.J. トロル

講義目的、講義概要	授業計画
Das Herbstsemester ist eigentlich die Fortsetzung des Frühling semesters; neue Studenten sind dennoch erwünscht, sofern sie das Buch mitbringen und die Bereitschaft, sich aktiv zu beteiligen. Wir beginnen wiederholend, aber dann fortschreitend im Aufbau.	Ich orientiere mich wieder am Durchschnittsniveau der Teilnehmer. 1. Einführung und Wiederholung 2. Wiederholungen aus dem Buch 3. Persönliche Mitteilungen 4. Bucharbeit, Lektion 21-23 5. Freies Schreiben im Perfekt 6. Buch Lektion 24-26 7. Kleiner Test und Lektion 28-29 8. E-Mails und Lektion 30-31 9. Lebensläufe 10. Aus Notizen einen Bericht machen 11. Buch Lektion 32-34 12. Auf Anzeigen antworten, Lektion 35-38 13. Lektion 39-40 und freies Material 14. Gesamtzusammenfassung
テキスト、参考文献	**評価方法**
Y. Fukuda/H. Troll『表現と作文』(Verlag 白水社) ISBN978-4-560-00458-6	Hausaufgaben und End-Semestertests, regelmäßige Teilnahme

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	R．ザンドロック

講義目的、講義概要	授業計画
Für fortgeschrittene Studenten des 3. und 4. Studienjahres: Das Ziel dieses Kurses ist, besser, leichter und schneller schreiben zu lernen. Wir werden verschiedene Übungen machen: Satzschreibübungen mit vorgegebenenTexten, Briefschreibübungen, kreatives Schreiben (Imagination ist wichtig!) ohne und mit Bild- und Zeichnungsvorgabe. Wenn gewünscht, Übungen zum Aufgabenteil “Schriftlicher Ausdruck” der ZD-Prüfung. Bearbeitung von Musterprüfungen. Regelmäßige Hausaufgaben werden erwartet.	Progressiver Aufbau abhängig von der Zahl der Studenten und ihren Vorkenntnissen.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Fotokopien werden gestellt.	Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben, kleine Zwischentests und ein Abschlusstest.

05～08 年度 04 年度以前	上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	R．ザンドロック

講義目的、講義概要	授業計画
Für fortgeschrittene Studenten des 3. und 4. Studienjahres: Das Ziel dieses Kurses ist, besser, leichter und schneller schreiben zu lernen. Wir werden verschiedene Übungen machen: Satzschreibübungen mit vorgegebenenTexten, Briefschreibübungen, kreatives Schreiben (Imagination ist wichtig!) ohne und mit Bild- und Zeichnungsvorgabe. Wenn gewünscht, Übungen zum Aufgabenteil “Schriftlicher Ausdruck” der ZD-Prüfung. Bearbeitung von Musterprüfungen. Regelmäßige Hausaufgaben werden erwartet.	Progressiver Aufbau abhängig von der Zahl der Studenten und ihren Vorkenntnissen.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Fotokopien werden gestellt.	Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben, kleine Zwischentests und ein Abschlusstest.

08 年度以前	通訳特殊演習 I	担当者	青山　愛香

講義目的、講義概要	授業計画
★　定員 20 名。第一回授業で選抜試験を実施するので、必ず参加すること。 ★　おおよそ、Zertifikat Deutsch、「独検」2 級、TestDaF のレベル 3 程度かそれ以上のドイツ語能力を前提とする。 通訳という実践的な場面を想定しながら、基礎トレーニングの方法を学び、実際の場面を想定しながら、ドイツ語能力全体の向上を目指す。	第 1 回授業で指示する。 基本的な練習として： ・ シャドウイング（「影」のようになぞる練習） ・ エコー・トレーニング（「こだま」のように反復する練習） ・ クイック・レスポンス（短文、句の日独・独日翻訳） ・ 早口言葉 などを取り入れて、基礎能力向上を目指す。 さらに、先輩が学生時代に通訳として実際に活躍した（現在もしている）「日独スポーツ同時交流」などでのアテンダンス通訳の基本的なシーン、あいさつなどのテクストをもとに実践的な練習をする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に適宜指示する。	授業時の小テスト、学期末などのレポートをもとに評価する。欠席・遅刻が多い場合には評価の対象としない。

08 年度以前	通訳特殊演習 II	担当者	青山　愛香

講義目的、講義概要	授業計画
★　定員 20 名。「通訳特殊演習 I 」の履修が前提となる。 ★　おおよそ、Zertifikat Deutsch、「独検」2 級、TestDaF のレベル 3 程度かそれ以上のドイツ語能力を前提とする。 通訳という実践的な場面を想定しながら、基礎トレーニングの方法を学び、実際の場面を想定しながら、ドイツ語全体の向上を目指す。	第 1 回授業で指示する。基本的には「基礎練習」と「基本的シーンの練習」の二部構成とする。 春学期同様の基本的な練習のほかに、 ・ Bildbeschreibung ・ Textinterpretation など、言語技術向上を目指す練習も取り入れる。 秋学期にはドイツ首相などのあいさつ、獨協でのドイツ大使のあいさつなどを取り入れて、よりレベルの高い通訳の練習をする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に適宜指示する。	授業時の小テスト、学期末などのレポートをもとにする。欠席・遅刻が多い場合には評価の対象としない。

09 年度 05～08 年度	ドイツ語概論 a ドイツ語学概論 I	担当者	木内　基実

講義目的、講義概要	授業計画
初めてドイツ語に触れる皆さんにドイツ語とはどんな言葉なのかを包括的にお話しします。当然文法に言及しますが、文法の授業とは異なった視点からもアプローチしたいと考えています。語彙・文例などは初学者にも分かり易いものに限定して進めていきたいのですが、何しろ全てが初めてという皆さんを主対象にしていますので、限界があるのも事実です。そこはいくらかの努力をして下さい。そしてドイツ語が何か特別な、高尚で難しい言語などではなく、日常誰もが話している言葉だと言うことを理解して欲しく思います。（ドイツ語が苦手、という２年生や３年生を見ていると例えば英語に対するようなラフな気持ちが無く、とても身構えてしまっているように感じられます。不幸なことです。）肩の力を抜いて、気軽に、楽しくドイツ語を勉強しましょう。	１．　導入 ２．　発音について ３．　文法用語について ４．　名詞・代名詞について ５．　〃 ６．　冠詞について ７．　形容詞について ８．　〃 ９．　造語について １０．　格について １１．　動詞について １２．　〃 １３．　前置詞について １４．　視聴覚教材による実習 （授業の進捗状況によっては変更の可能性があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料を用意します。	毎週行う小テストの結果によって評価します。

09 年度 05～08 年度	ドイツ語概論 b ドイツ語学概論 II	担当者	木内　基実

講義目的、講義概要	授業計画
初めてドイツ語に触れる皆さんにドイツ語とはどんな言葉なのかを包括的にお話しします。当然文法に言及しますが、文法の授業とは異なった視点からもアプローチしたいと考えています。語彙・文例などは初学者にも分かり易いものに限定して進めていきたいのですが、何しろ全てが初めてという皆さんを主対象にしていますので、限界があるのも事実です。そこはいくらかの努力をして下さい。そしてドイツ語が何か特別な、高尚で難しい言語などではなく、日常誰もが話している言葉だと言うことを理解して欲しく思います。（ドイツ語が苦手、という２年生や３年生を見ていると例えば英語に対するようなラフな気持ちが無く、とても身構えてしまっているように感じられます。不幸なことです。）肩の力を抜いて、気軽に、楽しくドイツ語を勉強しましょう。	１．　副詞について ２．　接続詞について ３．　副文について ４．　関係代名詞について ５．　関係副詞について ６．　配語法について ７．　接続法について ８．　文の種類について ９．　文の構成要素について １０．　否定について １１．　一致について １２．　ドイツ語口語・俗語の世界 １３．　視聴覚教材による実習 １４．　〃 （授業の進捗状況によっては変更の可能性があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料を用意します。	毎週行う小テストの結果によって評価します。

09 年度 05～08 年度	ドイツ語圏文学・思想概論 a ドイツ文学概論 I	担当者	渡部　重美

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の授業ではまず、Märchen という語が主にドイツでどのような意味合いで使われてきたか、あるいは、その Märchen が意味するものは何か、それが時代とともにどのように変化してきたかという問題意識を導きの糸として、啓蒙の時代から現代、正確に言うとミヒャエル・エンデ（Michael Ende）あたりまでのドイツ文学史を大雑把に概観する。その際、各時代の思想的バックグラウンドについても簡単に触れるつもりである。 春学期の最後の 3 回は、主にグリム童話に対するさまざまな解釈を引き合いに出しながら、文学テキストに対するアプローチの仕方、言い換えれば、文学テキストの楽しみ方について概説する。	1. オリエンテーション：授業の概要、評価方法等の説明 2. われわれが Märchen に対して持っているイメージ 3. グリム以前のドイツとドイツ文学（1） 4. グリム以前のドイツとドイツ文学（2） 5. グリムの時代のドイツとドイツ文学（1） 6. グリムの時代のドイツとドイツ文学（2） 7. グリムの時代のドイツとドイツ文学（3） 8. グリム以降のドイツとドイツ文学（1） 9. グリム以降のドイツとドイツ文学（2） 10.グリム以降のドイツとドイツ文学（3） 11. Märchen を読む/文学テキストの読み方（1） 12. Märchen を読む/文学テキストの読み方（2） 13. Märchen を読む/文学テキストの読み方（3） 14.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。必要な資料は、毎回授業時にコピーで配布する。また、参考文献については、必要に応じてその都度指示する。	毎回授業の最後に、授業に関する意見・感想、質問などを書いていただく。そのリアクション・ペーパーの内容（出欠チェックを兼ねる、20%）と、学期末に行う筆記試験の結果（80%）を総合して評価する。

09 年度 05～08 年度	ドイツ語圏文学・思想概論 b ドイツ文学概論 II	担当者	渡部　重美

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の授業では、ドイツ語圏の詩・小説・ドラマの各分野から代表的な作品を選び（具体的にどの作品を扱うのかは、秋学期第 1 回の授業で説明する）、その著者の生涯、その作品が書かれた経緯、その作品に対する後世の評価・代表的な解釈などもまじえながら、鑑賞していく。	1. オリエンテーション：授業の概要、評価方法等の説明 2. ドイツ語圏の詩（1） 3. ドイツ語圏の詩（2） 4. ドイツ語圏の詩（3） 5. ドイツ語圏の詩（4） 6. ドイツ語圏の小説（1） 7. ドイツ語圏の小説（2） 8. ドイツ語圏の小説（3） 9. ドイツ語圏の小説（4） 10.ドイツ語圏のドラマ（1） 11.ドイツ語圏のドラマ（2） 12.ドイツ語圏のドラマ（3） 13.ドイツ語圏のドラマ（4） 14.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。必要な資料は、毎回授業時にコピーで配布する。また、参考文献については、必要に応じてその都度指示する。	毎回授業の最後に、授業に関する意見・感想、質問などを書いていただく。そのリアクション・ペーパーの内容（出欠チェックを兼ねる、20%）と、学期末に行う筆記試験の結果（80%）を総合して評価する。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツ語学各論 I ドイツ語学各論 a	担当者	柿沼　義孝

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ：「あける」「開く」、「閉める」「閉じる」、「残る」「余る」など、日本語に限らず、どの言語にも多くの類義表現がある。この授業ではこのような意味の類似したドイツ語の言い回しを、特に動詞と前置詞の結びついた表現を中心に、その解説を読みながら、そのポイントを捉え、ドイツ語のさらなる習熟と内容理解を目指す。 授業の概要：はじめに語彙に関する言語学の専門領域である「意味論」に関するドイツ語の入門書を読み、言語における意味の問題を概観し、その後で個々の動詞表現を中心としたる意義表現を解説を読み進める。同時に具体的使用例にもとづいた練習問題を解きながら、当該の語彙表現の正確な使い方と細かいニュアンスの違いを検証しつつ、適宜、日本語との比較対照を行う。	第１回：　意味論とは何か（１） 第２回：　意味論とは何か（２） 第３回：　意味の捉え方（１） 第４回：　意味の捉え方（２） 第５回：　語彙の構造（１） 第６回：　意味の構造（２） 第７回：　antworten auf / mit,　arbeiten für / gegen / um 第８回：　bestehen auf / aus / in / vor 第９回：　brauchen für / zu,　es bringen auf / zu 第１０回：denken über / von / +verschiedene Präpositon 第１１回：erfahren von / über 第１２回：sich freuen auf / über / an 第１３回：hindern an / bei 第１４回：kämpfen gegen / mit / um
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： Hans-Dieter Fischer, HorstUerpmann:Einführung in die deutsche Sprachwissenschaft.　München 1987 Sigbert Larzel: sprechen von? sprechen über.　Übungen zu sinnverwandten Präpositionalverben. München 1986 参考文献： Jochen Schröder :Lexkon deutscher Präpositonnen. Leipzig 1985　他	授業時間中の発表の内容の充実度、及び定期試験の成績で評価する。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツ語学各論 II ドイツ語学各論 b	担当者	柿沼　義孝

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ：「あける」「開く」、「閉める」「閉じる」、「残る」「余る」など、日本語に限らず、どの言語にも多くの類義表現がある。この授業ではこのような意味の類似したドイツ語の言い回しを、特に動詞と前置詞の結びついた表現を中心に、その解説を読みながら、そのポイントを捉え、ドイツ語のさらなる習熟と内容理解を目指す。 授業の概要：はじめに語彙に関する言語学の専門領域である「意味論」に関するドイツ語の入門書を読み、言語における意味の問題を概観し、その後で個々の動詞表現を中心としたる意義表現を解説を読み進める。同時に具体的使用例にもとづいた練習問題を解きながら、当該の語彙表現の正確な使い方と細かいニュアンスの違いを検証しつつ、適宜、日本語との比較対照も行うつもりである。	第１回：　文法的と意味 第２回：　語場 第３回：　連想的意味 第４回：　副次的意味 第５回：　喚情的意味 第６回：　状況的意味 第７回：　klagen über / um 第８回：　leiden an / um 第９回：　rechnen mit / auf / + verschiedene Präposition 第１０回：sagen zu / von / über 第１１回：sehen an / aus / in 第１２回：sparen an / auf / mit 第１３回：sprechen mit / zu / vor / über / von 第１４回：wissen / von / über / um
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： Hans-Dieter Fischer, HorstUerpmann:Einführung in die deutsche Sprachwissenschaft.　München 1987 Sigbert Larzel: sprechen von? sprechen über.　Übungen zu sinnverwandten Präpositionalverben. München 1986 参考文献： Jochen Schröder :Lexkon deutscher Präpositonnen. Leipzig 1985　他	授業時間中の発表の内容の充実度、及び定期試験の成績で評価する。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツ文学各論 I ドイツ文学各論 a	担当者	石丸　昭二

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1 抒情詩の鑑賞。 2 ドイツ語の読解力を養う。何よりも詩の文体に慣れることが大切である。詩を読むことはある意味散文よりも難しい。論理的思考もさることながら、それ以上に感性、想像力のはたらきが必要とされるからである。 3 韻律形式を学ぶ。 講義概要 テーマは「R.M.Rilke と Jugendstil」 Jugendstil は 19 世紀末から 20 世紀にかけて欧米全土を風靡した芸術様式、いわゆる「アール・ヌーヴォー」のドイツ形式。それは主として工芸部門における運動であったが、ドイツではさらにいろいろな芸術分野を取り込んだ総合芸術として発展、文学もその例外ではなかった。 Jugendstil の芸術家村 Worpswede で Heinrich Vogeler をはじめとする若い芸術家らと親交を結んだリルケの初期の抒情詩にも多くその影響が見られる。 本講ではまず概説とスライドによる画像で Jugendstil の全体像を把握したのち、その観点からリルケの初期の抒情詩を読み解いていく。	1. 授業計画の説明と準備 2. Jugendstil の概説（意義、特徴、モチーフ、理念、社会的背景、さらに Worpswede, Heinrich Vogeler 紹介など） 3. 同上 4. 同上 5. リルケの抒情詩 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	定期試験（またはレポート）の評価を規準とし、平常点（授業への出欠、小レポート提出など）を加味して総合的に判断する。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツ文学各論 II ドイツ文学各論 b	担当者	石丸　昭二

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準ずるが、秋学期ではリルケ以外にも対象を広げ、ユーゲントシュティールの雑誌（パン、ユーゲント、ヴェール・サクルム。ジンプリツィスムスなど）に挿絵付きで発表された詩作品をできるだけ取り上げ、詩の内容・形式と挿絵の両面から解説していく。	テーマは春学期からの継続であるので、秋学期のみの受講は、拒否はしないが、あまり勧められない。 ユーゲントシュティールの抒情詩（作者、作品名はその都度選ぶので、今は明記できない）。 1. 同上 2. 同上 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12 同上 13. 同上 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	春学期と同じ。

08 年度以前	ドイツ語講読（語学）	担当者	柿沼　義孝

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ：外国語を学ぶにあたって、読む、聴く、話すと並んで、より困難と思えるのが「書く」という行為である。この授業では文法的に正しいドイツ語文を書くことはもちろんだが、さらにドイツ語文として、きれいな、自分の意図に合った適切な文を書くには、どのような点に注意すればよいかを、Duden の Satz の章を読みつつ、これを考え、日本語文との比較を試みる。参加した学生諸君が幾分なりともドイツ語で悪文とは何か、それを避けるにはどうすればよいか考える機会を提供したい。 授業の概要：Duden の下記のテキストを読みつつ、文章、文体、長短、情報のつながり方、文と文との関係、修飾語などについてドイツ語文をまとめる上での要領を概観し、日本語と比べてどのような点が類似しており、どこが異なるのか検討する。	第１回：　文とは何か。 第２回：　文体と意味のニュアンス 第３回：　書き手と読み手 第４回：　言語とジェンダー 第５回：　手紙はどう書き始めるか。 第６回：　文章をどう終わるか。 第７回：　文の経済性と内容の明晰性 第８回：　良い文とは何か。 第９回：　文の長さ 第１０回：情報の量について 第１１回：既知と未知の事柄との関係 第１２回：語順について 第１３回：属格と語順 第１４回：冠詞と修飾語の問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： Ulrich Püschel:Wie schreibt man gutes Deutsch? Mannheim 2000 参考書： マーク・ピーターセン『日本人の英語』岩波新書　18（岩波書店）1988 年 大津栄一郎『英語の感覚』岩波新書　278（岩波書店）1993 年　他	授業時間中の発表の内容の充実度、及び定期試験の成績で評価する。

08 年度以前	ドイツ語講読（語学）	担当者	柿沼　義孝

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ：外国語を学ぶにあたって、読む、聴く、話すと並んで、より困難と思えるのが「書く」という行為である。この授業では文法的に正しいドイツ語文を書くことはもちろんだが、さらにドイツ語文として、きれいな、自分の意図に合った適切な文を書くには、どのような点に注意すればよいかを、Duden の Wort, Stil の章を読みつつ、これを考え、日本語文との比較を試みる。参加した学生諸君が幾分なりともドイツ語で良い分、悪い文とは何か、それを避けるにはどうすればよいか考える機会を提供したい。 授業の概要：Duden の下記のテキストを読みつつ、適切な表現をめぐる語の選択の問題、メタファー、強調、婉曲表現、修飾語などについてドイツ語でどのような形が望ましいのかを考えつつ、日本語と比べてどのような点が類似しており、どこが異なるのか検討する。	第１回：　語彙の選択の問題 第２回：　表現の適切性と不適切性 第３回：　具体的表現、バリエーション、強調表現 第４回：　ニュアンス 第５回：　名詞表現と動詞表現 第６回：　構造体としての語 第７回：　心態詞と文 第８回：　語と語のつながり方 第９回：　文章の中の一文とテクスト 第１０回：文体と新聞記事 第１１回：個々人の文体 第１２回：良いドイツ語文とは何か。（１） 第１３回：良いドイツ語文とは何か。（２） 第１４回：良いドイツ語文とは何か。（３）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： Ulrich Püschel:Wie schreibt man gutes Deutsch? Mannheim 2000 参考書： マーク・ピーターセン『日本人の英語』岩波新書　18（岩波書店）1988 年 大津栄一郎『英語の感覚』岩波新書　278（岩波書店）1993 年　他	授業時間中の発表の内容の充実度、及び定期試験の成績で評価する。

08 年度以前	ドイツ語講読（語学）	担当者	A. ヴェルナー

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ (über aktuelle Entwicklungen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen…). Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Artikel aus Lexika... Zu jedem Text werden verschiedene Aufgaben von den Teilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet und danach zusammen im Unterricht besprochen: - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes	1. – 6. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 7. Stunde: Test zu den besprochenen Texten 8.- 12. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 14. Stunde: Test zu den besprochenen Texten
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピーを配布する。	2 Tests Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht

08 年度以前	ドイツ語講読（語学）	担当者	A. ヴェルナー

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ (über aktuelle Entwicklungs-Tendenzen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen…). Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Artikel aus Lexika... Zu jedem Text werden verschiedene Aufgaben von den Teilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet und danach zusammen im Unterricht besprochen: - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes	1. – 6. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 7. Stunde: Test zu den besprochenen Texten 8.- 12. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 14. Stunde: Test zu den besprochenen Texten
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピーを配布する。	2 Tests Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht

08 年度以前	ドイツ語講読(語学)	担当者	A. リプスキ

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ (über aktuelle Entwicklungstendenzen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen…). Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Artikel aus Lexika... Zu jedem Text gibt es verschiedene Aufgaben, die die Kursteilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereiten und die danach zusammen im Unterricht besprochen werden： - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes	1. – 6. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 7. Stunde: Test zu den besprochenen Texten 8.－ 13. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 14. Stunde: Test zu den besprochenen Texten
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピーを配布する。	2 schriftliche Tests

08 年度以前	ドイツ語講読(語学)	担当者	A. リプスキ

講義目的、講義概要	授業計画
In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ (über aktuelle Entwicklungstendenzen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen…). Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Artikel aus Lexika... Zu jedem Text gibt es verschiedene Aufgaben, die die Kursteilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereiten und die danach zusammen im Unterricht besprochen werden: - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes	1. – 6. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 7. Stunde: Test zu den besprochenen Texten 8.－ 13. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten 14. Stunde: Test zu den besprochenen Texten
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピーを配布する。	2 schriftliche Tests

08 年度以前	ドイツ語講読（文学）	担当者	石丸　昭二

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 内容理解もさることながら、なによりもまずドイツ語文章の読解力を鍛えることを主眼とする。原則として毎回発表してもらうので、受講者諸君の積極的、意欲的な取り組みを期待したい。 講義概要 ドイツ・レアリズム文学の代表的作家で、ドイツの家庭、学校で最もよく読まれ、わが国でも「みずうみ Immensee」などの作者としてよく知られるシュトルム Theodor Storm (1817-1888) の短篇『キルヒ父子』 Hans und Heinz Kirch(1882) を精読する。 本編はバルト海沿岸のとある小さな町を舞台に、しがない船乗りから一代にして裕福な実業家、町の名門市民に登り詰めたハンス・キルヒと、それとまったく異なる運命を辿るべく生まれたハインツとのあいだに繰り広げられる、父と子の対立葛藤を主題としている。洋の東西を問わず普遍的なこの父子の葛藤劇は通常心理学的に動機づけられるが（フロイト心理学）、同時に逃れられぬ宿命的なものとも考えられる。いずれにせよ、これは永遠のテーマである。	1. 準備 2. 全篇約 60 ページに及ぶので、毎回少なくとも 2 ページを努力目標とする。 3. 前回終った箇所から。 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布の予定	定期試験（またはレポート）の評価を規準とし、平常点（授業への出欠、発表など）を加味して総合的に判断する。

08 年度以前	ドイツ語講読（文学）	担当者	石丸　昭二

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準ずる	1.－14. 春学期に準ずる。 授業内容は春学期からの継続であるので、秋学期のみの受講は、拒否はしないが、勧められない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に配布したプリント。	春学期と同じ。

08 年度以前	ドイツ語講読（文学）	担当者	本橋　右京

講義目的、講義概要	授業計画
Franz KAFKA（1883－1924）について学びます。テーマは、かれの作品ではなく、ユダヤ文化、ドイツ文化、故郷プラハとの関係です。 講読の時間なので、読解力の涵養・向上を目指すのはもちろんです。適宜、作品を紹介します。 テクストは旧正書法に準拠。全 54 ページ。各時間３ページをめどに読み進めます。	１．ガイダンス ２．Prag im Strudel der Geschichte(1) ３．Prag im Strudel der Geschichte(2) ４．Prag im Strudel der Geschichte(3) ５．Prag im Strudel der Geschichte(4) ６．Die Prager Juden(1) ７．Die Prager Juden(2) ８．Die Prager Juden(3) ９．Die Prager Juden(4) １０．Die Prager Juden(5) １１．Beruf und Berfung(1) １２．Beruf und Berfung(2) １３．Beruf und Berfung(3) １４．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ｅｇｍｏｎｔ　ＨＥＬＭＥＬ　『フランツ・カフカーユダヤ人のプラハ』（新訂版）　（朝日出版社）	期末定期試験６０％、通常授業における発表や貢献度を４０％とし評価します。

08 年度以前	ドイツ語講読（文学）	担当者	本橋　右京

講義目的、講義概要	授業計画
Franz KAFKA（1883－1924）について学びます。ユダヤ、ドイツ、チェコ、３つの文化の中で自己の Identität を模索する作家がテーマになります。 所期のテクストが終了次第、彼の初期作品から読んでいきます。 講読の時間なので、さらなる読解力の涵養・向上を目指すのはもちろんです。 テクストは旧正書法に準拠しています。	１．Im Schatten des Vaters(1) ２．Im Schatten des Vaters(2) ３．Im Schatten des Vaters(3) ４．Auf der Suche nach der Identität (1) ５．Auf der Suche nach der Identität (2) ６．Auf der Suche nach der Identität (3) ７．Auf der Suche nach der Identität (4) ８．”Die Betrachtung”(1) ９．”Die Betrachtung”(2) １０．”Die Betrachtung”(3) １１．”Die Betrachtung”(4) １２．”Die Betrachtung”(5) １３．”Die Betrachtung”(6) １４．”Die Betrachtung”(7)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ｅｇｍｏｎｔ　ＨＥＬＭＥＬ　『フランツ・カフカーユダヤ人のプラハ－』（新訂版）　（朝日出版社） Kafka 作品については、コピーを配布。	期末定期試験６０％、通常授業における発表や貢献度を４０％とし評価します。

08 年度以前	ドイツ語講読（文学）	担当者	山口　祐子

講義目的、講義概要	授業計画
主に２０世紀前半にドイツ語で書かれた文学作品・エッセイ・評論を用いて、基本的な読解技術を習得することが本講座の目的です。 授業中行うのはテキストの精読です。毎回 1 ページ半から 2 ページ分の予習範囲を指定します。訳読の分担はしません。受講生は毎回全員予習をして授業に臨んでください。	第１回の授業で受講者の希望を聞いたうえでテキストを決定します。受講希望者は必ず初回及び第 2 回目の授業に出席してください。 初回の授業に欠席した学生に対しては原則として受講を認めません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献はとくにありませんが、毎回必ず辞書を持参してください。 推薦辞書：『独和大辞典　第２版』小学館	授業内試験６割、授業中の課題達成度４割で評価します。正当な理由無く出席率が７割に満たない場合は評価対象外とします。定期試験は行いません。

08 年度以前	ドイツ語講読（文学）	担当者	山口　祐子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じます。	原則として春学期に準じます。ただし春学期に読んだテキストの続きを読む可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に準じます。	春学期に準じます。

08 年度以前	ドイツ語講読（文学）	担当者	小島　康男

講義目的、講義概要	授業計画
スイスを代表する喜劇作家フリードリヒ・デュレンマットの「散文喜劇」『ギリシャ男、ギリシャ女性を求む』(1955)を読む。作者は、現代の救いようのない世界を表現するには「悲劇」ではなく、「喜劇」こそふさわしいと主張して，もっぱらグロテスクな喜劇を書いた。グロテスクな誇張や痛烈な風刺で現代社会の機構や不条理を観客に認識させるのがその目的である。 この授業で扱うテキストでは、ある下積み生活にあえぐ中年独身サラリーマンが、思いがけない奇跡によって出世街道を驀進する。ある新聞に求婚広告を依頼したのがそのきっかけだった、夢のように魅力的な美女が名乗り出る。ドイツ語圏の新聞、例えば全国紙「フランクフルター・アルゲマイネ」では、実際に毎週土曜日の紙面の１ページを割いて、この求縁広告が掲載される。このテキストはそのような興味深い題材をも含んでいる。	ドイツ語で書かれたテキストを扱うため、むろんドイツ語を読む訓練が目的とされ、そのドイツ語に含まれる意味を受講者全員で考えていく。 この作品は後に映画化（1966）され、しかもドイツを代表する往年の名優リューマン(Heinz Rühmann)が主人公を演じた。彼はドイツの世論調査で最も尊敬すべき人物ベストテンに数えられるほどの人気者でもあったが、原作をうまく再現できたか、折にふれて映画鑑賞を通じて検討してみよう。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは Friedrich Dürrenmatt: Gieche sucht Griechin であるが、コピーして配布する。参考文献は講義中に指示する。	普段の授業中の発表や期末のテストなどにより総合的評価をする。

08 年度以前	ドイツ語講読（文学）	担当者	小島　康男

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じるが､秋学期のみの受講者にも不利にならないよう配慮する。	春学期に準じる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に準じる｡場合によってテキストを変更する可能性もある。	春学期に準じる。

09 年度 05～08 年度	ドイツ語圏芸術・文化概論 a ドイツ文化史概論 I	担当者	山本　淳

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 　その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 講義概要 　ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。 　映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 　春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。	1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 ドイツ語圏芸術・文化のルーツと特質 3 中世 4 同上 5 ルネサンス・宗教改革期 6 同上 7 三十年戦争・バロック期 8 同上 9 啓蒙主義時代 10 同上 11 ロマン主義時代 12 同上 13 グリムのメルヒェン 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。	講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。

09 年度 05～08 年度	ドイツ語圏芸術・文化概論 b ドイツ文化史概論 II	担当者	山本　淳

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 　その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 講義概要 　ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。 　映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 　春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。	1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 19 世紀後半 3 同上 4 世紀転換期 5 同上 6 モダニズム 7 同上 8 ヴァイマル文化 9 同上 10 ナチズムと芸術 11 同上 12 戦後ドイツの知的歴史 13 同上 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。	講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの思想Ⅰ ドイツの思想 a	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
今学期では、ドイツ語圏の思想について、特にカント以降を思想史的に沿って話していきたいと思う。中心はドイツ観念論以降の 19 世紀の哲学ということになる。 ドイツ語圏の思想について語るとは、ヨーロッパの思想を背景に話すことになるので、話はドイツ語圏の思想家に限定されることはない。古代ギリシャから、イギリス、フランスなどの地域をも包括した講義になるので、学生にとってはヨーロッパの歴史や地誌に関する知識を持つ方が受講する際に楽であろう。 特に哲学や思想と聞いて尻込みする学生もいるかとは思うが、難しいといったような偏見を避けて参加するようにしてください。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　哲学史概観（古代ギリシャ以降）(1) 第 3 回　哲学史概観（デカルト以降）(2) 第 4 回　カントの批判哲学(1) 第 5 回　カントの批判哲学(2) 第 6 回　ドイツ観念論(1)) 第 7 回　ドイツ観念論(2) 第 8 回　キルケゴールなどの思想 第 9 回　ニーチェの思想(1) 第 10 回　ニーチェの思想(2) 第 11 回　マルクス主義(1) 第 12 回　マルクス主義(2) 第 13 回　19 世紀末の思想 第 14 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席と学期末試験

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの思想Ⅱ ドイツの思想 b	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
今学期では、ドイツ語圏の思想を、現代思想を軸に思想史的に説明していきたいと思っている。19 世紀末のフロイトから今日に至るまでの現代思想の脈絡を追っていくことになる。 前学期と同様に、ドイツ語圏の思想といっても背景にヨーロッパの文化を持っているのは当然のことであり、ヨーロッパの歴史や地誌に関する知識を持っていることの方が、受講する際に学生にとっては楽であろう。 また、この学期の講義は前学期の講義で扱った思想家のことを前提にしていることがあるので、望むらくは前学期の講義も受講していることが望ましい。とはいえ、この学期から初めて受講する学生に配慮して、できるだけコンパクトに思想的な前提を紹介することになるので、初めて「ドイツの思想」を受講することに臆さないでほしい。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　フロイトの思想(1) 第 3 回　フロイトの思想(2) 第 4 回　ヴィトゲンシュタインの思想など 第 5 回　現象学という運動(1) 第 6 回　現象学という運動(2) 第 7 回　現象学という運動(3) 第 8 回　ヴァルターベンヤミン(1) 第 9 回　ヴァルターベンヤミン(2) 第 10 回　フランクフルト学派(1) 第 11 回　フランクフルト学派(2) 第 12 回　ポストモダニズム(1) 第 13 回　ポストモダニズム(2) 第 14 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席と学期末試験

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの音楽 I ドイツの音楽 a	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（主に CD）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。 春学期には、中世から 18 世紀までに書かれた多様な音楽作品をとりあげます。普段耳にする機会の少ない作品も多いと思いますが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。 注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。	１回ずつテーマを定めてお話しします。以下のようなテーマでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進度等に応じて変更する場合もあります。 1. 導入、概観 2. 中世の音楽 3. 15～16 世紀の声楽作品 4. シュッツとブクステフーデの声楽作品 5. 15～17 世紀のオルガン音楽 6. 南ドイツのバロック音楽 7. J. S. バッハの生涯と器楽作品 8. バッハの声楽作品 9. ヘンデルの音楽（2009 年が没後 250 周年です） 10. テレマンとベルリン楽派 11. 前古典派の音楽 12. ハイドンの音楽（2009 年が没後 200 周年です） 13. W. A. モーツァルトの生涯と器楽作品 14. モーツァルトの声楽作品
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に適宜紹介します。	出席状況（10 回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、授業中に感想などを書いてもらいます。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの音楽 II ドイツの音楽 b	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料で聴き、親しんでいただく授業です。 秋学期には、18 世紀終わり頃から現代に書かれた音楽を、主に作曲家とその作品という観点からとりあげます。そのなかで、作曲の背景、書法上の特徴、音楽様式の変遷等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わり頃には、ドイツ語圏の国歌や民謡等も扱う予定です。 秋学期は、春学期の授業内容（18 世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく春学期から通年で履修してください。 注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。	１回ずつテーマを定めてお話しします。以下のような作曲家等の作品をとりあげることを予定していますが、みなさんの関心や進度等に応じて変更する場合もあります。 1. ベートーヴェン（１） 2. ベートーヴェン（２） 3. シューベルト 4. メンデルスゾーン（2009 年が生誕 200 周年です） 5. シューマン 6. リスト 7. ヴァーグナー 8. ブラームス 9. J. シュトラウス II 世と R. シュトラウス 10. ブルックナー、マーラー、新ウィーン楽派 11. 20 世紀中葉以降のドイツ語圏の音楽 12. ドイツ語圏の国歌 13. ドイツ語圏のクリスマスの音楽 14. ドイツ語圏の民謡、ポップス
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に適宜紹介します。	出席状況（10 回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、授業中に感想などを書いてもらいます。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの美術 I ドイツの美術 a	担当者	青山　愛香

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、西洋美術史の大きな流れを把握しながら、ドイツ美術の特質を理解することを目的としています。春学期は、ドイツが生んだ最大の画家・版画家であるアルブレヒト・デューラー (1471-1528) の作品を中心に扱います。デューラーが活躍した時代は後期ゴシックからルネサンスに移行する転換期であり、それは彼の作品が最もよく示しています。 春学期は特に15世紀ルネサンスとはどういう作品を生んだ時代なのかを考えるために、古代ギリシャ・ローマの芸術から始めます。 この講義では受講者が自分の目で作品をよく見て、それを記述するディスクリプションの時間を設けています。このディスクリプションは学期末に全て提出して頂きます。	14 回にわたって西洋美術史の流れを大きく掴みながら、その中でのドイツ美術の位置づけについて探ってゆきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜授業中に指示する。	課題物の提出ならびに学期末筆記試験。 出席重視。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの美術 II ドイツの美術 b	担当者	青山　愛香

講義目的、講義概要	授業計画
春学期はアルブレヒト・デューラーに焦点を絞り、具体的な作品研究を行いますが、秋学期はドイツ美術を様々な角度から見て行きます。 特に秋学期は「風景画の誕生」ならびに「肖像画」を二つのキーワードにして、15世紀においてドイツ美術がこの二つの分野において果たした役割をアルブレヒト・アルトドルファーならびにホールバイン父子の作品を中心に概観します。 春学期に引き続き授業中に作品を言葉で分析するディスクリプションの練習を行います。	14 回にわたって西洋美術史の流れを大きく掴みながら、その中でのドイツ美術の位置づけについて探ってゆきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜授業中に指示する。	課題物の提出ならびに学期末筆記試験。 出席重視。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツ思想・芸術各論Ⅰ ドイツ思想・芸術各論 a	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
Ｈ・ハイネ没後１５０年あまりたちました。ハイネは日本では「ローレライ」の作詞者・抒情詩人として知られています。歌曲の好きな人なら、シューマンやシューベルトがハイネの詩に曲をつけた歌曲集を知っているでしょう。けれどもハイネは、少年時代をフランス革命軍の駐留していたデュッセルドルフで過ごし、ボンやゲッティンゲンで法律を学び、ベルリンでヘーゲルの哲学講義を聞き、その影響を受けた革命的思想家でもあったのです。 ハイネ自身の思想は詩の形でも散文作品の形でも著されていますが、この講義では『ドイツ宗教・哲学史考』を採り上げ、ハイネがドイツ人の宗教観・世界観をどのようにとらえていたかを説明します。 ゲルマン神話を背景に、ルターがどのようにカトリック教会を批判し、宗教改革を成し遂げ、かつドイツ語の統一に貢献したか、スピノザとレッシングがどのような形でドイツ古典哲学の先駆けとなったか、そしてカント、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルらによる「哲学革命」がどのようにして起こったかを、ハイネが哲学的でも宗教的でもない、ハイネ独特のイローニッシュなスタイルで論じていることを紹介します。 また、講義の合間に、できるだけハイネらの作品を紹介します。	１．ハイネ紹介と序文 ２．第１巻　宗教改革とマルチン・ルター　人民の哲学 ３．同　キリスト教と民間信仰 ４．同　マルチン・ルターと民間信仰 ５．同　唯心論と感覚主義 ６．同　宗教改革と思想の自由 ７．同　ルターによるドイツ文語の確立 ８．同　ルターとドイツ文学 ９．第２巻　ドイツ哲学革命の先駆者スピノザとレッシング　現代哲学の父デカルト １０．同　唯物論と観念論 １１．同　スピノザ １２．スピノザつづき １３．同　レッシング １４．レッシングつづき １５．まとめと復習 以上はおおまかな計画であり、若干順序と範囲が狂うことがあることをあらかじめ承知してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Zur Geschite der Religion und Philosophie in Deutschland 『ドイツ宗教・哲学史考』 （少人数であれば、全文のコピーを配布します。）	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを書いて、これを自己評価してもらい、それをもとに評価を決めます。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツ思想・芸術各論Ⅱ ドイツ思想・芸術各論 b	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
Ｈ・ハイネ没後１５０年あまりたちました。ハイネは日本では「ローレライ」の作詞者・抒情詩人として知られています。歌曲の好きな人なら、シューマンやシューベルトがハイネの詩に曲をつけた歌曲集を知っているでしょう。けれどもハイネは、少年時代をフランス革命軍の駐留していたデュッセルドルフで過ごし、ボンやゲッティンゲンで法律を学び、ベルリンでヘーゲルの哲学講義を聞き、その影響を受けた革命的思想家でもあったのです。 ハイネ自身の思想は詩の形でも散文作品の形でも著されていますが、この講義では『ドイツ宗教・哲学史考』を採り上げ、ハイネがドイツ人の宗教観・世界観をどのようにとらえていたかを説明します。 ゲルマン神話を背景に、ルターがどのようにカトリック教会を批判し、宗教改革を成し遂げ、かつドイツ語の統一に貢献したか、スピノザとレッシングがどのような形でドイツ古典哲学の先駆けとなったか、そしてカント、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルらによる「哲学革命」がどのようにして起こったかを、ハイネが哲学的でも宗教的でもない、ハイネ独特のイローニッシュなスタイルで論じていることを紹介します。 また、講義の合間に、できるだけハイネの詩による歌曲を紹介します。	１．『ドイツ宗教・哲学史考』第３巻　哲学革命　序 ２．カントとロベスピエール ３．カントの『純粋理性批判』 ４．いわゆるコペルニクス的転回 ５．カントの『純粋理性批判』 ６．ドイツの哲学革命 ７．フィヒテ哲学の主観的形式 ８．無神論論争・ゲーテとフィヒテ ９．シェリングの自然哲学 １０．自然哲学と汎神論 １１．ヘーゲルによる自然哲学の大成 １２．ヘーゲル弁証法 １３．ドイツの政治革命への見通し １４．ヘーゲル以後 １５．まとめ 以上はおおまかな計画であり、若干順序と範囲が狂うことがあることをあらかじめ承知してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Zur Geschite der Religion und Philosophie in Deutschland 『ドイツ宗教・哲学史考』 （少人数であれば、全文のコピーを配布します。）	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを書いて、これを自己評価してもらい、それをもとに評価を決めます。

08 年度以前	ドイツ語講読(思想)	担当者	山路　朝彦

講義目的、講義概要	授業計画
ルター訳「旧約聖書」を読む (講義目的) 欧米の思想を学ぶ際に、ギリシャ神話(悲劇)とともにキリスト教についての知識は必須である。したがって、春学期は「旧約聖書」の中から有名なエピソードを読み、キリスト教に関する最低限の知識を得ることを講義目的とする。 (講義概要) 聖書講読：著名なルター訳の聖書から「授業計画」に示す節を読む。 聖書には独特の簡潔な文体があり、講読は容易ではないが、それらに慣れる。 文学作品・会話のフレーズ等で引用される聖書の言い回しを覚える。 旧約聖書のエピソードが描かれた宗教画(例：アダムとイブ、バベルの塔など)を見て、各主題を読み解く。 キリスト教・聖書に対する前提知識を必要とするため、通年での履修が望ましい。 あらかじめ旧約聖書の該当の個所を日本語で通読しておくことを求める。	1　ルターの聖書翻訳について 2　天地創造 3　失楽園(アダムとイブ) 4　カインとアベル 5　ノアの箱舟(箱舟の建造・大洪水) 6　ノアの箱舟(祝福と契約の虹) 7　バベルの塔 8　ユダヤの祖アブラハム 9　ソドムとゴモラ 10 イサクの犠牲 11 出エジプト(エジプトのユダヤ人) 12 出エジプト(モーゼの出生) 13 出エジプト(災いを起こすモーゼ・過越しの祭り) 14 出エジプト(モーゼの十戒)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Die Heilige Schrift nach der Übersetzung Martin Luthers. (Stuttgarter Erklärungsbibel), Deutsche Bibelgesellschaft (Hrgg.v. der Evangelischen Kirche in Deutschland) 1984	選択して受講する科目であるので、評価は厳正に行う。 評価を受けるには、出席・授業中の分担・定期試験の成績において一定以上の基準を満たさなければならない。

08 年度以前	ドイツ語講読(思想)	担当者	山路　朝彦

講義目的、講義概要	授業計画
「新約聖書を読む」 (講義目的) 欧米の文学を読む際に、ギリシャ神話(悲劇)とともにキリスト教についての知識は必須である。したがって、秋学期は「新約聖書」の中から有名なエピソードを読み、キリスト教に関する最低限の知識を得ることを講義目的とする。 (講義概要) 聖書講読：「四福音書」を中心に「授業計画」に示す「新約聖書」の節を読む。 聖書には独特の簡潔な文体があり、講読は容易ではないが、それらに慣れる。 文学作品・会話のフレーズ等で引用される聖書の言い回しを覚える。 新約聖書のエピソードが描かれた宗教画(例：聖家族・ピエタなど)を見て、各主題を読み解く。 キリスト教・聖書に対する前提知識を必要とするため、通年での履修が望ましい。 あらかじめ新約聖書の該当の個所を日本語で通読しておくことを求める。	1　新約聖書(四福音書・使徒行伝・パウロの手紙・黙示録) 2　受胎告知 3　生誕(羊飼いの訪問・東方の博士・エジプトへの逃避) 4　洗礼者ヨハネ 5　山上の垂訓 6　主の祈り 7　たとえ話(善きサマリア人・迷える子羊・放蕩息子) 8　エルサレム入城 9　最後の晩餐(ユダの裏切り、ゲッセマネの園の祈り) 10 審問(ユダの接吻・ペテロの否認・バラバ) 11 磔刑(ゴルゴタの丘・十字架) 12 復活 13 昇天 14 使徒たち(パウロの回心・伝導)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Die Heilige Schrift nach der Übersetzung Martin Luthers. (Stuttgarter Erklärungsbibel), Deutsche Bibelgesellschaft (Hrgg.v. der Evangelischen Kirche in Deutschland) 1984	選択して受講する科目であるので、評価は厳正に行う。 評価を受けるには、出席・授業中の分担・定期試験の成績において一定以上の基準を満たさなければならない。

08 年度以前	ドイツ語講読（思想）	担当者	渡部　重美

講義目的、講義概要	授業計画
比較的平易なドイツ語で書かれた下記テキストの講読を通して、2 年生までに身につけた（はずの？）文法知識を確認するとともに、ドイツ語テキストの読み方を習得することを目的とする。 下記テキストには、次の 7 つの短編が収められている。 ・Die Erde ist rund ・Ein Tisch ist ein Tisch ・Amerika gibt es nicht ・Der Erfinder ・Der Mann mit dem Gedächtnis ・Jodok läßt grüßen ・Der Mann, der nichts weiter wissen wollte いずれも哲学的な内容でいろいろと考えさせられる作品だが、上に書いたように比較的平易なドイツ語で書かれているので、半年ですべて読み終えるつもりである。なお、テキストは教科書用に編集されたものではないので、日本語による注や解説は一切ついていない。	1. オリエンテーション：授業概要の説明など 2. 下記テキストの講読 3. 下記テキストの講読 4. 下記テキストの講読 5. 下記テキストの講読 6. 下記テキストの講読 7. 下記テキストの講読 8. 下記テキストの講読 9. 下記テキストの講読 10. 下記テキストの講読 11. 下記テキストの講読 12. 下記テキストの講読 13. 下記テキストの講読 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Peter Bichsel: *Kindergeschichten*. Frankfurt am Main (Luchterhand Literaturverlag).　テキストに関する詳細は、第 1 回オリエンテーションで説明する。	学期末に行う筆記試験（70%）と、毎回の授業への参加度（出席状況、発表担当回数、およびその発表の出来具合 30%）を合わせて評価する。

08 年度以前	ドイツ語講読（思想）	担当者	渡部　重美

講義目的、講義概要	授業計画
下記テキストの講読を通して、これまでに身につけた文法知識をより確かなものにするとともに、ドイツ語テキストの読み方を習得することを目的とする。 下記テキストでは、人間と「魂」の問題が大きなテーマになっている。講読を通してこの問題について考えてみたい。また、時間的余裕があれば、同じテーマ扱っている（というのも、この Undine から影響を受けたと言われている）アンデルセンの『人魚姫』との読み比べもしてみたい。	1. オリエンテーション：授業概要の説明など 2. 下記テキストの講読 3. 下記テキストの講読 4. 下記テキストの講読 5. 下記テキストの講読 6. 下記テキストの講読 7. 下記テキストの講読 8. 下記テキストの講読 9. 下記テキストの講読 10. 下記テキストの講読 11. 下記テキストの講読 12. 下記テキストの講読 13. 下記テキストの講読 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Friedrich de la Motte Fouqué: *Undine*. テキストに関する詳細は、第 1 回オリエンテーションで説明する。	学期末に行う筆記試験（70%）と、毎回の授業への参加度（出席状況、発表担当回数、およびその発表の出来具合 30%）を合わせて評価する。

08 年度以前	ドイツ語講読（思想）	担当者	前田　智

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 欧州の時代思潮と映像文化との連関性を、原書講読を通じて探る。 ＜講義概要＞ オーストリア・ウィーン出身の映画の巨匠フリッツ・ラング監督（1890-1976）の人と作品を通して、ワイマール共和国時代（1919-1933）の思想的背景との接点を探る。ラングのドイツ時代のサイレント（無声）映画から初期のトーキー（発声）映画は、特に表現主義等の影響を受けており、当時の社会構造や社会情勢の不条理を、色濃く打ち出した作品が主である。本講義では、ラングのドイツ時代の主要作品に関連したものを講読していく。尚、使用する教材のドイツ語の難易度には配慮する。 また、映像にて右記の作品の一部または全体を講義の進行状況に応じて紹介する予定である。	1. 講義の概要 2. Der müde Tod (1) 3. Der müde Tod (2) 4. Der müde Tod (3) 5. Der müde Tod (4) 6. Metropolis (1) 7. Metropolis (2) 8. Metropolis (3) 9. Metropolis (4) 10. M – Eine Stadt sucht einen Mörder (1) 11. M – Eine Stadt sucht einen Mörder (2) 12. M – Eine Stadt sucht einen Mörder (3) 13. M – Eine Stadt sucht einen Mörder (4) 14. 春学期の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 必要に応じてプリントを配布する。 ＜参考文献＞ 「カリガリからヒトラーへ」(S.クラカウアー著 / みすず書房) 等。	担当者の訳読 、期末定期試験に基づく総合評価。 ただし良好な出席を前提とする。

08 年度以前	ドイツ語講読（思想）	担当者	前田　智

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 欧州の時代思潮と映像文化との連関性を、原書講読を通じて探る。 ＜講義概要＞ ドイツ・ビーレフェルト出身の映画の巨匠であるフリードリヒ・ヴィルヘルム・ムルナウ監督（1888-1931）の人と作品を通して、ワイマール共和国時代（1919-1933）の思想的背景との接点を探る。ムルナウのドイツ時代のサイレント（無声）映画もラングの映画と同様に、特に表現主義等の影響を受けている。しかしラングの映画とは異なり、ムルナウの当時の映画は、社会の中で抑圧された人間に焦点を当てた作品が主である。本講義では、ムルナウのドイツ時代の主要作品に関連したものを講読していく。尚、使用する教材のドイツ語の難易度には配慮する。 また、映像にて右記の作品の一部または全体を講義の進行状況に応じて紹介する予定である。	1. 講義の概要 2. Nosferatu – Eine Symphonie des Grauens (1) 3. Nosferatu – Eine Symphonie des Grauens (2) 4. Nosferatu – Eine Symphonie des Grauens (3) 5. Nosferatu – Eine Symphonie des Grauens (4) 6. Der letzte Mann (1) 7. Der letzte Mann (2) 8. Der letzte Mann (3) 9. Der letzte Mann (4) 10. Faust - Eine deutsche Volkssage (1) 11. Faust – Eine deutsche Volkssage (2) 12. Faust – Eine deutsche Volkssage (3) 13. Faust – Eine deutsche Volkssage (4) 14. 秋学期の総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 必要に応じてプリントを配布する。 ＜参考文献＞ 「カリガリからヒトラーへ」(S.クラカウアー著 / みすず書房) 等。	担当者の訳読 、期末定期試験に基づく総合評価。 ただし良好な出席を前提とする。

08 年度以前	ドイツ語講読（思想）	担当者	宮村　重徳

講義目的、講義概要	授業計画
講義主題：蜜蜂マーヤの理解社会学（ドイツ語社会学言論入門） 講読目的と概要： 主題は、自分の居場所を探して冒険するマーヤの「理解社会学」。ドイツでは今、マックス・ヴェーバーの「理解社会学」（1913 年）が注目を浴びている。当時ドイツを席巻していた「かのように」の哲学や表現主義運動と並び、ベストセラーになったヴァルデマール・ボンセルスの「蜜蜂マーヤの冒険」（1912 年）を手掛かりに、世界大戦前夜の公共性のマスクしたヒト社会の不安な素顔に迫る。蜜蜂マーヤは日本のアニメでも知られているが、原作はドイツ語だということを知らない人が多い。ドイツ語圏の自然に培われた社会的人格（Sozial-Person）を表現するだけでなく、個別の内奥的人格（Intime Person）を保証する点で、ドイツ語は他に類を見ない社会学の言語である。講読の目標は自然と社会のコンフリクトを解決する創造的言語感性を培うこと、アメリカの解釈社会学（Interpretative Sociology）の成果に学びつつ読み直しが進むドイツの理解社会学（Verstehende Soziologie）の言論世界にアプローチしたい。自分が社会人として何処に属し、同時に何処にも依存しない自由な主体であることをマニフェストするに、独文学に於ける表現主義か社会学の行動主義かという二者択一でない、相互学習可能な社会学言論の地平が問われる。 「かのように」の言論、マーヤという「飛ぶモノの目線」（Vogel-perspektiv）に立ち、どのような疑問・どの実践からこの理論か自分の目で確かめてもらいたい。ドイツ社会の自然言語でする発話スタイルに慣れ親しみ、聞き分ける力・対話技巧のセンスをスキルアップする。二つの世界大戦の狭間で虚空に投げ出されたドイツの若者たちを魅了し自己再建を助けた言論、「大人の童話」を批判的に読み解きながら、三年生にはドイツ語文章論の基礎的訓練を、四年生には原書を翻訳せずに分節化する訓練を促す。積極的参加とドイツ語での討議を期待している。表現主義的自己の限界と可能性を究める為に、クリエイティブに働くモノで差別的価値の壁を見破り、「存在の彼方」に越え出るヒトへ自らチャレンジして欲しい。	一般講義の他に、ボンセルスの「蜜蜂マーヤ」、ヴェーバーかリヒターの「理解社会学」を交互に二回ずつの周期で読破する。いずれも大変読みやすいので、安心して参加して欲しい。春学期は原書の素読に徹し、読み方・分節化の手解きを試み、「理解と解釈」社会学言論の基本的術語に慣れ親しむ。 第一回目は Biene Maja の Video を鑑賞して全体イメージを捉え、共感のポイントを探る。第二回目以降はマーヤの疑問・発言と応答・行動の観察と結果を折に触れて分析する。 ０．「飛ぶモノ」に語らせ聴き入る世界 １．理解と解釈の枠組み、対話の技巧、 ２．逃亡と帰郷、「誤ちは生産的である」 ３．理解社会学の「諒解」的言論、 ４．三つの前提、存在論的解明、自然と精神のコンフリクト理解と説明、社会行為としての自己表現と批評空間 ５．文法的・心理的・歴史的問答の解釈 ６．「語るモノとヒト」について、知恵文学に於ける人格性と非人格性、物語のメタアー論的構成と課題 ７．独文学と社会学の言論的課題、耽美主義と理想主義（ユートピア論）、理念型思考との接点、共感的地平融合と離反の構造
テキスト、参考文献	**評価方法**
1. Waldemar Bonsels, “Die Biene Maja und ihre Abenteuer“（『蜜蜂マーヤの冒険』, 1912）, München, Saur 2003、講読書 2. Max Weber, “Über einige Kategorien der vrstehenden Soziologie“, 1913. 3. Rudolf Richter, “Verstehende Soziologie” Manual. Wien, 2002、併読書 4. 宮村重徳『社会学言論のカテゴリー構想、ヴェーバー「理解社会学」の解釈項としての「諒解」』（法政大学『多摩論集』第 25 号、2009 年）	三年生には出席と講読への積極的参加、評価方法は筆記試験かレポートを選択、四年生の場合、評価方法は各自の判断に任せる。卒業年度の学生の成績は基本的に自己申告制。

08 年度以前	ドイツ語講読（思想）	担当者	宮村　重徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる。以下で若干の補足をしておきます。理解社会学の言論的性格には、「かのように」思索し実践する直喩的発話が明確です。その点で、ファイインガーの「『かのように』の哲学」（1911 年）、その影響を受けた森鴎外の『かのように』と『阿部一族』のドイツ語訳を参照することが望ましい。批評的技法としての直喩と隠喩の違いは、秋学期の重要な課題として位置づけられます。君たちが、「嘘っぽい・嘘みたい」、「そうかも」、「マジで」（本気で？）、「そうじゃん」（本当じゃないの？）と語るとき、すでに「擬制」と「諒解」を巡る言論世界の討議に足を踏み入れているのです。	秋学期は春学期の課題を継続し展開する。「蜜蜂マーヤ」を手掛かりに自己理解と解釈の可能性を探る。方法としては、１．自分なりのイメージ分析と問いの発見、２．自分とは異なる仕方で理解し解釈されたモノを逆比で学ぶ、３．コミュニケーション行為の枠組み、４．主題と争点の絞り込み方・レポートの書き方を外国書講読の範囲内で模索する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期のリストに追加。1. G. Altenhoff, Die Biene Maja, der glückliche Löwe und die Sozialversicherung (2006); 2. Gerhard Mackenroth, “Zweck-verstehen und Ausdrucksverstehen“. 3. Hans Faihinger, Die Philosophie des Als-ob (1911).	春学期に準じる。

08 年度以前	ドイツ語講読(芸術)	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
この講義ではドイツ語の読解能力を高め、比較的複雑な構文を読みこなせるまでの実力をつけることを目的とする。また、テクスト背後にあるドイツ語圏の文化事情などについても言及する必要である。 採用する教科書は日本語の中もついた比較的読みやすいものなので、教科書のテーマ（初期写真史）に関心のある学生は、臆することなく参加してみてください。	第 1 回　オリエンテーション（発表の順番決めなど） 第 2 回～第 13 回　テクストの読解と議論 第 14 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ダウテンダイ :『パパが写真家になったころ』（三修社）	出席と学期末試験

08 年度以前	ドイツ語講読（芸術）	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
前学期の授業に引き続いてダウテンダイのテクストを読んでいきます。目的は前学期と同様、複雑な構造を持ったドイツ語構文が読みこなせるような実力の養成です。 授業時間に余裕があれば、ヴァルターベンヤミンの写真論（『写真小史』、『複製技術時代の芸術作品』）などについても言及して、メディアとしての写真についての根本的な考察もしてみましょう。 以上のようなテーマに関心のある学生を歓迎します。	第 1 回　オリエンテーション（発表の順番決め） 第 2 回～第 13 回　テクストの読解と議論 第 14 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ダウテンダイ :『パパが写真家になったころ』（三修社） その他コピー配布。	出席と学期末試験

08 年度以前	ドイツ語講読（芸術）	担当者	飯沼　隆一

講義目的、講義概要	授業計画
2 年生までの基礎力の上に、これまでより専門性を持ったより高度なテキストを扱うのが「講読」の前提と思われます。それゆえ正確に読むことの訓練がこの時間の眼目でしょう。しかし自分にとって興味の持てるものならば自然にその能力は伸びるし、この読む力のもとは日本語での読書経験です。その点も含めて一歩一歩積み重ねていきたい。 春学期は、昨年度秋学期に扱った美術に関するものを継続します。ひろく芸術に興味のある人の積極的な参加を希望します。	北ドイツの芸術家村、ヴォルプスヴェーデと数奇な運命をたどったハインリッヒ・フォーゲラーに関するもの、有名なリルケの『ヴォルプスヴェーデ論』の一部、さらには同じ時代にまったく異なった指向で抽象画へと踏み出したカンディンスキーに関するものなども考えています。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各テキストはプリントによって配ります。 参考 : 種村季弘『ヴォルプスヴェーデふたたび』(筑摩書房)	平常点（出席、解答回数）と定期試験で決めます。

08 年度以前	ドイツ語講読（芸術）	担当者	飯沼　隆一

講義目的、講義概要	授業計画
音楽に関するものを取り上げます。	ドイツ語によるオペラのテキスト（荒すじ等の解説を含むもの）を扱います。モーツアルト（『魔笛』以外）、ヴァーグナー（『さまよえるオランダ人』他）、場合によっては歌曲なども考えています。 テキストの読解と平行し CD や DVD を用いて実際の演奏・映像にも触れたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各テキストはプリントによって配ります。	平常点（出席、解答回数）と定期試験で決めます。

08 年度以前	ドイツ語講読（芸術）	担当者	小島　康男

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、ドイツ語で書かれた喜歌劇（オペレッタ）のテキストを読んでみる。「オペレッタ」は「オペラ」とどう違うのかを定義するのは厄介であるが、一般に前者のほうがにエンターテイメント性が強いと言われる。オペラは貴族のサロンで生まれ、ヨーロッパ文化の一つの象徴として発展したのに対し、オペレッタは大衆の求める娯楽として生まれたもの、カルチャーに対するサブカルチャーであるとも言われる。 テキストとしてはオペレッタの代表的作曲家ヨハン・シュトラウス 2 世の、『こうもり』に次いで有名な『ジプシー男爵』(1885)を選ぶ。 しかし「ジプシー」という言葉は現在では差別語として一般には使用されない。にもかかわらずこの作品のタイトルは変更されない。それには何か理由があるのだろうか。そういった疑問をも含めて、この音楽作品は様々な問題が内在している実に興味深い文化史の資料である。	音楽劇作品であるため、詩や小説などと表現方法が異なる。台詞やト書き、そして何よりも音楽に支えられた舞台上演が前提となるが、この時間にはあくまで台本にこだわっていき、文化史的観点からも考察する。 しかしこの授業は「ドイツ語講読」と銘打っているからにはむろんドイツ語を読む訓練が目的とされるが、同時にそのドイツ語に含まれる問題の源泉を受講者全員で考えてみたい。生きた会話のやり取りが基本であるため、読んでも楽しいはずだ。 とはいえ、オペレッタ作品は音楽が命であるため、できるだけテキストの視聴覚的理解を心がけ、必要に応じてビデオ機器などをも使用しながら、多面的な授業にしたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Johann Strauss: Der Zigeunerbaron のテキストは、コピーして配布する。参考文献は講義中に指示する。	普段の授業中の発表や期末のテストなどにより総合的評価をする。

08 年度以前	ドイツ語講読（芸術）	担当者	小島　康男

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じるが､秋学期のみの受講者にも不利にならないよう配慮する。	春学期に準じる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に準じる。	春学期に準じる。

08 年度以前	ドイツ語講読（芸術）	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
音楽にまつわるドイツ語の文章を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。 この授業では、2009 年に生誕 200 周年をむかえるフェーリクス・メンデルスゾーン・バルトルディ（1809～1847）の生涯と作品に関する文献をコピーで配布して読んでいただきます。メンデルスゾーンの生い立ちや活動についての文章、楽曲解説、メンデルスゾーン自身が書いた手紙、メンデルスゾーンゆかりの地の説明文などをとりあげる予定です。音楽の専門用語や、現代ドイツ語とは異なる 19 世紀特有の言い回しなどが出てきたりする場合もありますので、予め了解しておいてください。 なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。 注意事項：受講者全員に毎週、予習を課します。あてられても答えられないことがないように、充分準備して臨んでください。ドイツ語の書籍から生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。	1. オリエンテーション、メンデルスゾーンについて 2.～14.　各回２ページ程度のドイツ語の文章を読んでいく予定です。文法事項も必要に応じて解説します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはコピーで配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。 辞書は、小学館の『独和大辞典』を参照してください。	筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。 出席および授業中の発言を重視します。（10 回以上の出席が必要）

08 年度以前	ドイツ語講読（芸術）	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
音楽にまつわるドイツ語の文章を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。 この授業では、2009 年に生誕 200 周年をむかえるフェーリクス・メンデルスゾーン・バルトルディ（1809～1847）の生涯と作品に関する文献をコピーで配布して読んでいただきます。メンデルスゾーンの生い立ちや活動についての文章、楽曲解説、メンデルスゾーン自身が書いた手紙、メンデルスゾーンゆかりの地の説明文などをとりあげる予定です。音楽の専門用語や、現代ドイツ語とは異なる 19 世紀特有の言い回しなどが出てきたりする場合もありますので、予め了解しておいてください。 なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。 注意事項：①受講者全員に毎週、予習を課します。あてられても答えられないことがないように、充分準備して臨んでください。ドイツ語の書籍から生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。 ②春学期と連続した内容の文章を読みます。春学期に学習したメンデルスゾーンの生涯や作品等についての基礎知識をもっていることを前提として授業を進めますので、なるべく通年で受講してください。	1. オリエンテーション、メンデルスゾーンについて 2.～14.　各回２ページ程度のドイツ語の文章を読んでいく予定です。文法事項も必要に応じて解説します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはコピーで配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。 辞書は、小学館の『独和大辞典』を参照してください。	筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。 出席および授業中の発言を重視します。（10 回以上の出席が必要）

09 年度	ドイツ語圏現代社会概論 a	担当者	大串　紀代子

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ： 現代社会における諸問題は、一地域や一国内だけにとどまるものではない。政治，経済だけでなく、日常のあらゆる環境、社会現象、軍事にいたるまで世界的規模で相互依存している。本講義では、直接的にはドイツ語圏、すなわちドイツ、オーストリア、スイスにおける現代社会が抱えるさまざまな問題の理解だけでなく、同じ諸問題の日本でのありかたとの比較やグローバルな視点でこれらを把握し、バランスのとれた認識と思索を促すことを目指している。ドイツ語専攻学生対象講義のため、各回、各章すべてで主要概念、主要組織・機関、基本的専門用語等はドイツ語で習得する。 授業の概要： 各回、各章ともテーマ別に統計、グラフ、図像、写真などを多用して、学生が理解しやすいように工夫する。それぞれのテーマで基本的項目の理解を促し，実例をあげる。90 分間の講義のうち、60 分から 70 分は講義にあてるが、できれば毎回、20 分から 30 分はそれぞれの時点でのアクチュアルなテーマを扱う。そのため、インターネットでドイツテレビの「今日のニュース」を繰り返し視聴することにより、視聴覚的にニュースを理解し、できるだけ聞き取り・書き取りの能力を高めるようにする。	第 1 回：ヨーロッパのなかのドイツ、オーストリア、スイス。EU 諸国の中での 3 国の位置とその機能。 第 2 回：3 国の国土と人口。全体と各州の人口比、人口密度、出生率と死亡率の変遷。 第 3 回：連邦州としてのドイツ。各州の面積、人口、州都、それぞれの独自性。 第 4 回：連邦国としてのオーストリアと誓約同盟としてのスイスにおける同上の諸問題。 第 5 回：ドイツ各地域による地理的条件の差。主要河川と運河。 第 6 回：オーストリアとスイスの東西の地理的・歴史的条件の比較。 第 7 回：3 国の国土の利用状況。目的と管理。 第 8 回：環境問題。3 国での工業・家庭廃棄物処理。二酸化炭素排出量。森林絶滅、酸性雨の問題。 第 9 回：3 国におけるエネルギー政策と現状。再生可能エネルギー政策と原子力発電。 第 10 回：3 国の主要工業地帯の特徴と地下資源（石炭、石油、ガス、塩、鉄など）の自給率。 第 11 回：3 国の主要産業の分野と製品。ドイツでは，特に自動車産業の問題点。 第 12 回：ドイツにおける輸出入の現状。主要輸出品目と相手国、総額比較。 第 13 回：オーストリアとスイスにおける輸出入の現状。相手国と品目、総額比較。 第 14 回：3 国における労働問題。就業者数とその分野。男女・年齢比。失業者数の変化。労働時間、休暇。
テキスト、参考文献	**評価方法**
＊ Harenberg Aktuell Deutschland 2009. Meyers Lexikonverlag.Mannheim,Leipzig,Wien,Zürich ＊ ドイツ人のこころ。高橋義人著。岩波新書 262	各人がこの講義専用のノートを作成し、自筆で毎時間講義内容およびテーマに関する資料や意見を記録する。

09 年度	ドイツ語圏現代社会 b	担当者	大串　紀代子

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ： 春学期に準ずる。ただし、知識と理解を深めるだけでなく、各自の見解をレポートにまとめる。 授業の概要： 春学期と同様。ただし、統計や資料、されに視聴覚資料の理解を深める。	第 1 回：3 国における在住外国人問題。 第 2 回：3 国における休暇の現状。有給休暇。休暇の過ごし方。趣味と旅行、目的地、支出額など。 第 3 回：3 国における文化活動。 第 4 回：地域による各種ドイツ語の分布。その歴史的背景。スイスにおける特殊言語事情。 第 5 回：教育制度。3 国それぞれの制度の比較。職業教育。マイスター制度。 第 6 回：3 国の社会保障制度。病気、年金、介護、失業に関する社会保障。 第 7 回：3 国での消費活動。個人消費、世帯毎の項目別消費支出額の比率。年齢、男女別支出比率。 第 8 回：3 国でのメディア事情。 第 9 回：3 国の戦後史。特にナチスの克服。東西ドイツ分裂と再統一。EU に加盟しないスイスの立場。 第 10 回：ドイツの政治体制。上下院議会。政党とそれぞれの特徴。2009 年 9 月の総選挙。 第 11 回：オーストリアの政治体制。政党とそれぞれの特徴。 第 12 回：スイスの政治体制。直接民主制の実態。国、州、ゲマインデレベルでのそれぞれの三権。 第 13 回：軍隊。3 国それぞれの徴兵制とその実態。新兵養成。NATO 加盟国としてのアフガン派兵。 第 14 回：EU の組織、機関。EU 憲法。EU と加盟諸国の関係。
テキスト、参考文献	**評価方法**
＊ Harenberg Aktuell Deutschland 2009. Meyers Lexikonverlag.Mannheim,Leipzig,Wien,Zürich ＊ ドイツ人のこころ。高橋義人著。岩波新書 262	各人がこの講義専用のノートを作成し、自筆で毎時間講義内容およびテーマに関する資料や意見を記録する。学期末にノートを提出。ノートの完成度に応じて評価する。

09年度 05～08年度	ドイツ語圏歴史概論a ドイツ史概論Ⅰ	担当者	古田　善文

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にもオーストリアやスイスも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。 講義概要： 春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦の勃発までを対象に、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配付するほか、DVDやビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。	第１回：　年間授業計画、評価方法、参考文献等についての説明 第２回：　歴史とは何か？（主要な歴史方法論の解説） 第３回：　「記憶」をめぐる論争（１）ドイツ 第４回：　「記憶」をめぐる論争（２）オーストリア／日本 第５回：　ビデオ上映と解説：『ショア』関連 第６回：　ハプスブルク帝国史（１）：マリア・テレジア以前 第７回：　ハプスブルク帝国史（２）：マリア・テレジアの時代 第８回：　19世紀史（１）：ナポレオンとドイツ・オーストリア 第９回：　19世紀史（２）：1848年革命の社会史 第10回：19世紀史（３）：若きヒトラーと世紀末ウィーン 第11回：現代の開幕（１）：ドイツ統一と世界帝国への夢 第12回：現代の開幕（２）：第一次世界大戦（原因） 第13回：現代の開幕（３）：第一次世界大戦（経過／帰結） 第14回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
原則として、毎回講義レジュメを配付する。 若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史—18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房2008年第4版	学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。

09年度 05～08年度	ドイツ語圏歴史概論b ドイツ史概論Ⅱ	担当者	古田　善文

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 講義の目標は、ワイマール期からナチスの時代を経て、第二次世界大戦後のドイツ語圏の歴史の流れを概観していく。受講生は、この時代の主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。 講義概要： 秋学期は、ワイマール共和国の成立期からヒトラーの独裁を経て、第二次世界大戦の終結にいたる２０世紀の激動の時代を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配付するほか、DVDやビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。	第１回：　革命の時代：ドイツ革命とオーストリア革命 第２回：　ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 第３回：　ファシズムの誕生（１）：イタリア・ファシズムを中心とする欧州ファシズム運動の比較検討 第４回：　ファシズムの誕生（２）：ナチス運動の誕生 第５回：　ファシズム論の変遷 第６回：　危機の30年代（１）：民主政治システムの崩壊 第７回：　危機の30年代（２）：戦間期の国際政治 第８回：　ビデオ上映と解説：「ナチズム」関連 第10回：　受容と抵抗：ナチス体制下の民衆生活 第11回：第二次世界大戦（１）：大戦の経過と帰結 第12回：第二次世界大戦（２）：ホロコーストと戦後補償 第13回：占領改革と戦後復興：ドイツ占領から東西ドイツの成立まで 第 14回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
原則として、毎回講義レジュメを配付する。 若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史—18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房2008年第4版	学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの歴史Ⅰ ドイツの歴史 a	担当者	増谷　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
「ドイツ史の中のユダヤ」 ナチ時代の「ユダヤ人」に対するホロコーストはドイツの歴史のなかでも未曾有の出来事であるが、それはヒトラーの「ユダヤ嫌い」やナチ党の綱領に原因があるわけではなく、その基盤はドイツの歴史さらにはヨーロッパの歴史そのものの中にこそ求められる。 ドイツ史とヨーロッパ史のなかでユダヤはどのように生き生活してきたのか、それに対して「ドイツ人」やヨーロッパ人はどのように交流し、差別し、影響を受けてきたのか。そのようにユダヤを通じてドイツ史ないしヨーロッパ史をみることによって、教科書的なドイツ史やヨーロッパ史とは異なる歴史がみえてくるであろう。	Ⅰ「ヨーロッパ」の成立過程の中のユダヤ ライン川沿岸のユダヤ都市の成立 十字軍による迫害 民衆的迫害の成立 都市からの追放 ゲットーの成立 Ⅱ　近代ドイツにおけるユダヤの位置 宗教改革とユダヤ 「宮廷ユダヤ」と重商主義時代 啓蒙主義者とユダヤの「法的解放」 フランス革命とユダヤ Ⅲ　ナショナリズムの時代のユダヤ 国民運動とユダヤの地位 人種主義議論と反セム主義 ユダヤ・ナショナリズム シオニズムの成立 Ⅳ　ホロコーストとは何であったのか ヒトラーのウィーン ナチ党の成立と発展 ホロコーストの展開と結末
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介	テストないしレポート

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの歴史Ⅱ ドイツの歴史 b	担当者	増谷　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
「ドイツ・オーストリアの移民の歴史」 ヨーロッパはもともとあらゆる種類の「移動する人々」によって成立してきた。国民国家の成立は国境と国民を確定し、移動する人々を「移民」として扱った。しかしそうした国境を超える人々は後を絶たない。ドイツ・オーストリアにおいてそうした人々はどのような人たちであるのか、彼らはなぜ移動するのか、あるいは移動させられるのか。その歴史をたどってみることによって、ドイツ・オーストリアの移民問題の意味がわかるであろう。	Ⅰ　近代以前の中欧の移民の歴史 Ⅱ　国民国家の成立と移民 ドイツの場合 オーストリアの場合 Ⅲ　現代の移民・難民・外国人労働者 ドイツの事例 オーストリアの事例
テキスト、参考文献	**評価方法**
増谷英樹編『移民・難民・外国人労働者と多文化共生−日本とドイツ／歴史と現状−』有志社	試験ないしレポート

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの社会・事情 I ドイツの社会・事情 a	担当者	H．H．ゲートケ

講義目的、講義概要	授業計画
Politisches System und staatlicher Aufbau der Bundesrepublik Deutschland, geografische und historische Grundinformationen, politische Begriffe, Verfassung und staatliche Grundprinzipien, Organisation und Funktion staatlicher Organe, Wahl- und Parteiensystem	1. Vorbesprechung: Unterrichtsmodalitäten, Lehrmaterial 2. Begriffsklärung: Staat – Volk – Nation 3. – “ - : Bündnis – Staatenbund 4. – “ - : Bundesstaat – Zentralstaat 5. Staatssymbole: Flagge – Wappen – Hymne 6. Verfassung (Grundgesetz) 7. Staatliche Grundprinzipien I 8. Staatliche Grundprinzipien II 9. Republik – parlamentarische Demokratie 10. Rechtsstaat – Sozialstaat 11. Föderalismus 12. Deutsche Einheitsbestrebungen (historischer Abriss 1806-1871) 13. Deutsche Einheitsbestrebungen 1871-1990 14. Zusammenfassung, Fragestunde
テキスト、参考文献	**評価方法**
Material wird zum Semesterbeginn verteilt	Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit, Test am Semesterende

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの社会・事情 II ドイツの社会・事情 b	担当者	H．H．ゲートケ

講義目的、講義概要	授業計画
Politisches System und staatlicher Aufbau der Bundesrepublik Deutschland, geografische und historische Grundinformationen, politische Begriffe, Verfassung und staatliche Grundprinzipien, Organisation und Funktion staatlicher Organe, Wahl- und Parteiensystem	1. Besprechung der Testergebnisse, Vorbesprechung (Unterrichtsmodalitäten, Lehrmaterial) 2. Staatsorgane I: Staatsgewalt Legislative (Bundestag) 3. Staatsorgane II: Staatsgewalt Exekutive (Regierung) 4. Staatsorgane III: Staatsgewalt Judikative (Gerichte) 5. Gewaltenteilung horizontal – vertikal 6. Gesetzgebungskompetenzen des Bundes und der Länder 7. Staatsorgane IV: Bundespräsident 8. Bundesversammlung 9. Bundesrat 10. Wahlsystem I 11. Wahlsystem II 12. Parteiensystem 13. Europa - BRD – Bundesländer (geografisch) 14. Zusammenfassung, Fragestunde
テキスト、参考文献	**評価方法**
Material wird zum Semesterbeginn verteilt	Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit, Test am Semesterende

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの地誌・民俗Ⅰ ドイツの地誌・民俗 a	担当者	飯嶋　曜子

講義目的、講義概要	授業計画
ライン川は，スイス・アルプスに源を発し，リヒテンシュタイン，オーストリア，ドイツ，フランスを経てオランダで北海に注ぐヨーロッパを代表する国際河川である．古くからライン川はヨーロッパの南北交通の大動脈として機能しており，その流域には多くの都市が発展した．本講義では，ドイツ人が「父なるライン」と呼ぶライン川の流れに沿って，流域の各都市の特性を明らかにしながら受講者とともに旅をしていく．	1. 導入：ライン川の地理 2. Alpenrhein：アルプス山村 3. Hochrhein：ボーデン湖 4. スイス全般１ 5. スイス全般２ 6. Oberrhein：バーゼル 7. Oberrhein：アルザス 8. Oberrhein：シュバルツバルト 9. Mittelrhein：ローレライ、モーゼル 10. Niederrhein：ボンとケルン 11. Niederrhein：ルール工業地帯、エムシャーパーク 12. オランダ全般 13. ライン川流域空間 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
地図帳を毎回持参すること． テキストは指定しない． 授業中に資料を配布する．	レポートもしくは試験により評価

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの地誌・民俗Ⅱ ドイツの地誌・民俗 b	担当者	飯嶋　曜子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，ドイツの都市の構造とその変容を把握することを目的とする．特に，ドイツ再統一，ヨーロッパ統合の深化と拡大，地方分権型国家，という三つの側面に光を当てて，具体的な事例をもとに明らかにしていく．	1. 導入：ドイツの都市 2. ドイツ再統一（1）：ベルリンの地政学 3. ドイツ再統一（2）：社会主義的都市の構造 4. ドイツ再統一（3）：冷戦後の旧東ドイツ都市 5. ドイツ再統一（4）：ポツダム広場 6. ドイツ再統一（5）：プレンツラウアー・ベルク 7. ヨーロッパ統合（1）：EU 8. ヨーロッパ統合（2）：統合と地域間格差 9. ヨーロッパ統合（3）：EU 地域政策 10. ヨーロッパ統合（4）：ユーロリージョン 11. 地方分権（1）：多極分散型国家 12. 地方分権（2）：空間整備政策・都市計画 13. 地方分権（3）：環境政策 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
地図帳を毎回持参すること． テキストは指定しない． 授業中に資料を配布する．	レポートもしくは試験により評価

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの政治・対外関係 I ドイツの政治・対外関係 a	担当者	黒田　多美子

講義目的、講義概要	授業計画
「ドイツ人」という意識の芽生えた１９世紀初頭以降、ドイツ帝国の建設、第一次世界大戦・敗戦・第二次世界大戦・敗戦・分断国家・「統一」という激変する状況に、ドイツはどのように対応してきたのでしょうか。ドイツの対外政策を中心に各時代の国際関係を概観します（できるだけ多くの映像資料を活用する予定です)。 また、可能な範囲で日本の事例も対照することによって、ドイツの対外関係をより明確にしたいと考えています。	１．ガイダンス／第一次世界大戦までの対外関係 ２．第一次世界大戦の戦争責任をめぐる議論 ３．ヴァイマル共和国期の対外関係 ４．ナチスの対外政策(1) ５．ナチスの対外政策(2) ６．ドイツの極東政策（対日関係） ７．第二次世界大戦の終結と連合国の占領政策 ８．ニュルンベルク裁判と東京裁判 ９．冷戦と東西ドイツの分裂 １０．西ドイツの東方政策 １１．東西ドイツの「統一」 １２．近隣諸国との対話と和解 １３．歴史問題・戦後補償と賠償問題（日独比較） １４．総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は必要に応じて適宜指示します。	授業時のまとめ・理解度チェックと期末試験（またはレポート)。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの政治・対外関係 II ドイツの政治・対外関係 b	担当者	黒田　多美子

講義目的、講義概要	授業計画
戦後ドイツの政治と社会は、ナチの過去とどのように向きあってきたのでしょうか。 この講義では、戦後のドイツ政治とドイツ人の歴史認識がどのように関わりあい変化してきたのかという点を軸に、現在のドイツ社会を理解する上で重要な項目を選んで解説していきます。その際、ドイツの政治・社会をより理解するためには、日本との比較・検討も必要と思われますので、受講者はドイツへの関心だけではなく日本への関心も持ってください。また、受講者の人数にもよりますが、できるだけ一方的な授業にならないよう、受講者の皆さんにも調べたり考えてもらう時間をつくりたいと思います。	１．ガイダンス ２．戦後ドイツの政治と歴史認識の変遷　（1） ３．戦後ドイツの政治と歴史認識の変遷　（2） ４．戦後ドイツの司法改革（1）　Video ５．戦後ドイツの司法改革（2） ６．ドイツの政党（1） ７．ドイツの政党（2） ８．憲法（1）ドイツ基本法 ９．憲法（2）日本国憲法　Video １０．軍隊と兵役(1)　兵役拒否 １１．軍隊と兵役(2)　兵役拒否者の代替役務 １２．記念碑をめぐる政治家の議論（1）ドイツ １３．記念碑をめぐる政治家の議論（2）日本 １４．総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は必要に応じて適宜指示します。	授業時のコメント、課題、期末レポートで評価しますが、授業時の参加度なども考慮に入れます。

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの経済 I ドイツの経済 a	担当者	大重　光太郎

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツの社会を特徴づける際に、しばしば sozial という言葉が用いられる。sozial は、日本語で「社会的」と訳されることが多いが、「社会全体の」という中立的な意味以上のもの、「社会福祉的な」「社会公正の」「社会的弱者に配慮した」という意味を持っている。ドイツの国家は「社会的国家」(Sozialstaat)、経済のありかたも「社会的市場経済」(Soziale Marktwirtschaft)と特徴づけられる。社会福祉局（Sozialamt）、低所得者向け福祉住宅（Sozialwohnung)、生活保護（Sozialhilfe）など、挙げれば切りがない。低所得者などへ公共料金を減免する制度などは、「sozial なものだ」ということになる。sozial は、福祉を重視するドイツ社会を理解するときのキーワードのひとつであろう。 では、sozial とはどのような考え方なのか？　歴史的にどこから来ているのか？　どのような形で具体的にみられるのか？　今後、sozial なあり方はどのように変化していくのか？　この講義では、こうした問題意識を持ちながら、政治・経済・社会の様々な局面を取り上げて sozial の問題を考えていくこととしたい。 春学期は、現代ドイツの在り方を局面ごとに取り上げて検討していきたい。	１．　ガイダンス ２．　教育・職業訓練の領域　（１）教育 ３．　教育・職業訓練の領域　（２）職業訓練 ４．　大学教育　（１）大学制度 ５．　大学教育　（２）学費問題 ６．　労働の領域　（１）労働組合 ７．　労働の領域　（２）企業内のあり方 ８．　労働の領域　（３）非正規雇用 ９．　労働の領域　（４）失業問題 １０．　ワークライフバランス（１）導入 １１．　ワークライフバランス（２）ワーク領域 １２．　ワークライフバランス（３）ライフ領域 １３．　ワークライフバランス（４）取り組み １４．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献） 暉峻淑子『豊かさとは何か』岩波書店、1989 年。 アクチュアルな問題の年鑑として、Harenberg Aktuell の各年版（図書館蔵）がある。	期末テストによる評価

05～08 年度 04 年度以前	ドイツの経済 II ドイツの経済 b	担当者	大重　光太郎

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の講義では、sozial について地域レベルに焦点を当てることにより「社会的」なあり方、「社会国家」の在り方を考えていく。具体的には、 ―ドイツの sozial なあり方は地域レベルではどのような特徴・構造を持っているか？ ―どのような取り組みが行われているか？ ―市民（住民）はどのように関与しているか？ ―行政と市民はどのような関係を築いているか？ ―福祉団体、市民サークル(Verein)、労働組合などの関与は？ ―失業問題に対して、地域レベルではどのような取り組みを行っているか？ ―移民・外国人の地域レベルでの統合の取り組みは？ などを考えていきたい。 具体的対象としてデュースブルク市(Duisburg)を取り上げる。地域だけの問題を見るのではなく、それを例に取り上げながら、幅広く、失業問題、移民問題、市民参加、民主主義について考えていく。	１．　ガイダンス ２．　対象都市デュースブルクの概観 ３．　地域再生の取り組みの事例（１） ４．　同　（２） ５．　地域再生の担い手（１） ６．　同　（２） ７．　福祉団体、市民サークル ８．　失業問題（１）歴史 ９．　同　（２）失業の諸要因 １０．　同　（３）近年の取り組み、ハルツⅣ １１．　移民・外国人（１）歴史 １２．　同　（２）現状 １３．　同　（３）近年の取り組み １４．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は、授業中に指示する。 アクチュアルな問題の年鑑として、Harenberg Aktuell の各年版（図書館蔵）がある。	期末テストによる評価